

大渡道場遺跡 No.2

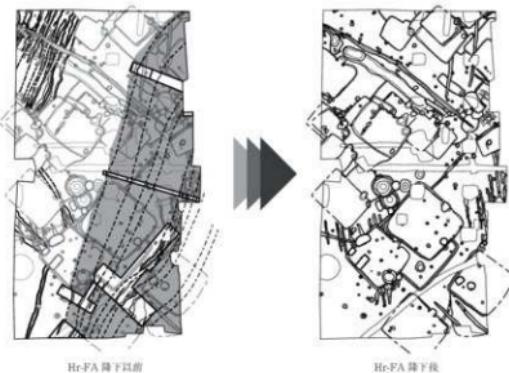
群馬県労働者生活協同組合事務所建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2016

前橋市教育委員会
群馬県労働者生活協同組合
有限会社毛野考古学研究所

大渡道場遺跡 No.2

群馬県労働者生活協同組合事務所建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書



2016

前橋市教育委員会
群馬県労働者生活協同組合
有限会社毛野考古学研究所



遺跡遠景（東から）



標準堆積土層



古代の竪穴住居跡（H-17号住居跡）



浅間Bテフラで埋没する住居跡（H-1号住居跡）



掘立柱建物跡の柱痕（B-2号掘立柱建物跡）



株名-二ツ岳渋川テフラ (Hr - FA) 層下水田 (N - 4号耕作痕)



水田の畦畔下で見付かった水路 (W - 9号溝)



Hr - FA 層を鋤き込む畠跡 (N - 3号耕作痕)



Hr - FA 層を鋤き込む畠跡 (N - 7号耕作痕)



As - C 混入土層を鋤き込む畠跡 (N - 5号耕作痕)

はじめに

関東平野の北西部に群馬県は位置し、前橋市はその中央、上毛三山のひとつ名峰赤城を背にし、利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。豊かな自然環境にも恵まれ、2万年前から人々が生活を始め、縄文時代の遺跡も、市内の随所に存在します。

古代において前橋台地は、広大な穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国を中心地として栄えました。また、律令時代になってからは總社・元總社地区に山王廃寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野国の中核をなす施設が次々に造されました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎧をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられ、「関東の華」とも呼ばれた腰橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であったことから、横浜に至る街道は「日本のシルクロード」とも呼ばれ、横浜港からは前橋シルクの名で海外に輸出され、近代日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する「大渡道場遺跡 No.2」は、平成22年に発見された「大渡道場遺跡」の隣接地であり、遺跡の存在が稀有な場所でもあるところから、その成果に期待がもたれていました。実際、今回の調査で、古墳時代の水田跡、古代の住居跡が調査され、利根川右岸の前橋の歴史に新たな1ページを加えることとなりました。残念ながら、現状のまでの保存が困難なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、関係機関や各方面の多大なるご配慮・ご尽力により調査事業を円滑に進められましたことに感謝いたします。また、発掘調査にあたられた担当者・作業員のみなさんのご尽力にも、厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成28年10月

前橋市教育委員会

教育長 佐藤博之

例 言

- 本書は、群馬県労働者生活協同組合事務所建設に伴う大渡道跡遺跡No.2の発掘調査報告書である。
- 発掘調査および整理作業は、群馬県労働者生活協同組合より委託を受けた有限会社毛野考古学研究所が、前橋市教育委員会による指導のもとに実施した。
- 発掘調査・整理作業から本書刊行に至る費用負担は、群馬県労働者生活協同組合によるものである。
- 発掘調査の要項は次のとおりである。

調 査 場 所 前橋市大渡町二丁目3番3・4・17・18・19・26
遺 跡 コ ー ド 27 A 218
発 掘 調 査 期 間 平成28年2月16日～平成28年4月28日
整理・報告書作成期間 平成28年4月30日～平成28年10月25日
発 掘・整 理 担 当 者 高橋清文・李スルチヨロン（有限会社毛野考古学研究所）
測 量・空 摂 技 師 亀田浩子・小出拓磨（有限会社毛野考古学研究所）

- 本書は高橋が編集し、執筆はIを藤坂和延（前橋市教育委員会文化財保護課）、他を高橋が担当した。
- 発掘調査で出土した遺物および図面・写真などの資料は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管する。
- 発掘調査・整理作業に関わった方々は次のとおりである。

【発掘調査】井口ヒロ子・石倉稔夫・岡庭秋男・北野進二・小関泰洋・勒使川原幸枝・永井述史
萩原秀子・橋元裕児・森山恵子・森山孝男

【整理作業】池内麻美・石原理久子・内田恵美子・内田真知子・樺沢美枝・合田幸子・下条真美代
瀬尾則子・関小百合・田村健志・深谷道子・山口昌子・渡辺博子

- 以下の諸氏に有益な御指導・御協力を賜った（順不同、敬称略）。

有山径世・鈴木徳雄・早田勉・永井智教・中村岳彦・三浦京子・南田法正

凡 例

- 座標値は日本測地系を使用し、2000年に行われた上野国分尼寺寺域確認調査から用いられている4m方眼のグリッド名称を併記した。ただし、前回調査ではX軸のグリッド名称が100m誤っている(ex. X 330誤→X 430正)。挿図中の方位記号は座標北で、水準値は海拔標高(m)を示す。
- 遺構の略称は、次のとおりである。
H:堅穴住居跡 B:掘立柱建物跡 I:井戸跡 D:土坑 P:ピット W:溝跡 N:耕作痕(水田・畠)
- 各図版の縮尺は遺構図が1/60、遺物実測図・遺物写真が1/1・1/2・1/4を基本とし、スケールを付した。
- 遺構図中の推定線・復元線は一点鎖線で、重複する下位の遺構や掘り方などは破線、住居跡床面の硬化範囲は二点鎖線で表現した。
- 遺構平面図のピット脇に配した「-」は、検出面からの深さ(cm)を意味する。
- 遺構図中の遺物出土位置はドットによって表記し、土師器・須恵器類を「●」、金属製品を「▲」、石器・石製品を「□」、骨類を「△」で示す。また、遺構図中の「S」は石製品・砾を表し、脇の()に石材を記す。
- 挿表中ににおいて、〔 〕は残存値を、()は推定値を表す。
- 遺物の検出量は、整理作業で利用した育苗箱(浅型60×30cm)に敷き並べた状態を基準とし、その数で把握した。10箱以上を大量、5~9箱を多量、2~4箱を中量、1箱を少量、1/2箱以下を微量とする。
- As-B・As-C・Hr-FA等は本書で使用する火山灰指標テフラの略称で、詳細はIV章に記載する。

目 次

卷頭写真	はじめに	例言	凡例	目次
I 調査に至る経緯				1
II 調査方針と経過				2
1 調査方針				2
2 調査経過				2
III 遺跡の位置と環境				2
1 地理的環境				2
2 歴史的環境				3
IV 標準堆積土層				5
V 遺構と遺物				5
1 遺跡の概要				5
2 壓穴住居跡				8
3 挖立柱建物跡				9
4 井戸跡・土坑				9
5 ピット				9
6 溝 跡				9
7 耕作痕				10
VIまとめ				33
引用・参考文献 写真図版 抄録 奥付				

挿図目次

Fig. 1 調査区域図	1	Fig.14 造営実測図 (H - 26 ~ 31)	19
Fig. 2 道路位置図	3	Fig.15 造営実測図 (H - 32 ~ 33)	20
Fig. 3 道路分布図	4	Fig.16 造営実測図 (B - 1 ~ 2, I - 1 ~ 2)	21
Fig. 4 標準堆積土層柱状図	5	Fig.17 造営実測図 (D, P, W, N - 1 ~ 3)	22
Fig. 5 全体図 (第1 ~ 3面)	6	Fig.18 造営実測図 (D, W)	23
Fig. 6 全体図 (第2面)	7	Fig.19 造営実測図 (W, N - 3 ~ 5 ~ 6)	24
Fig. 7 造営実測図 (H - 1 ~ 5・13・20, D - 8, N - 1)	12	Fig.20 造営実測図 (N - 4)	25
Fig. 8 造営実測図 (H - 6 ~ 9・11・12・14・21, D - 25, W - 5)	13	Fig.21 造物実測図 (H - 2 ~ 4・6・11・12・15・16)	26
Fig. 9 造営実測図 (H - 7 ~ 9・11・12・14・21, D - 25)	14	Fig.22 造物実測図 (H - 17 ~ 19・22 ~ 27, 29)	27
Fig.10 造営実測図 (H - 15 ~ 17, N - 7)	15	Fig.23 造物実測図 (H - 30 ~ 32・33, I - 1, D - 6・7)	28
Fig.11 造営実測図 (H - 15 ~ 17)	16	Fig.24 造物実測図 (D - 7・10・22・25, P - 42・77, W - 3・4・20)	29
Fig.12 造営実測図 (H - 18・19・22, W - 7)	17	Fig.25 造営変遷図 (1)	34
Fig.13 造営実測図 (H - 23 ~ 25)	18	Fig.26 造営変遷図 (2)	35

表目次

Tab. 1 壓穴住居跡一覧表	10	Tab. 4 溝跡一覧表	11
Tab. 2 挖立柱建物跡一覧表	11	Tab. 5 耕作痕一覧表	11
Tab. 3 井戸跡・土坑一覧表	11	Tab. 6 出土遺物整理表	29 ~ 32

写真図版目次

卷頭写真 1 道路遠景 (東から)	H - 5 ~ 20 号住居跡	P.L. 5 I - 1 ~ 2 号井戸跡
標準堆積土層	H - 6 号住居跡, W - 5 号溝跡	W - 1 ~ 2 号溝跡, D - 7 号土坑 (調査前)
古代の壓穴住居跡 (H - 17 号住居跡)	H - 7 ~ 14・21 号住居跡, D - 9 ~ 10	W - 3 (由東区), 4 号溝跡
浅間Bチフタで埋設する住居跡	号土坑	W - 3 (北西区), 20 号溝跡
(H - 1 号住居跡)	H - 8 ~ 9 号住居跡	W - 8 号溝跡
掘立柱建物跡の柱軸	H - 11 号住居跡	W - 9 ~ 10 号溝跡
(B - 2 号掘立柱建物跡)	H - 12 号住居跡	W - 11 ~ 18 号溝跡
卷頭写真 2 横名二つの浅間チフタ (Hr - FA)	H - 13 号住居跡	W - 15 号溝跡
解下水田 (IN - 4 号耕作痕)	H - 15 ~ 16・17 号住居跡	P.L. 6 W - 16 号溝跡
水田の畦畔下で見付かった水路	H - 17 号住居跡 (振り方)	W - 17 号溝跡
(W - 9 号溝跡)	H - 18 ~ 19 号住居跡, W - 6・7 号溝跡	N - 3 号耕作痕
Hr - FA 砂を撒き込む畠跡	H - 22 号住居跡	N - 4 号耕作痕 (トレント3)
(N - 3 号耕作痕)	H - 23 ~ 24 号住居跡	N - 4 号耕作痕 (トレント4・5)
Hr - FA 砂を撒き込む畠跡	H - 25 号住居跡	N - 5 号耕作痕, W - 19
(N - 7 号耕作痕)	H - 26 ~ 27・29 号住居跡	N - 6 号耕作痕, W - 14
As - C 泥入土刷を撒き込む畠跡	H - 27 ~ 28 号住居跡	N - 7 号耕作痕
(N - 5 号耕作痕)	H - 30・31 号住居跡, D - 25 号土坑	P.L. 7 出土遺物 (H - 2 ~ 4・6・11・12・15 ~ 17)
P.L. 1 道路の位置と現況の地形 (1967年春測量)	H - 33 号住居跡	P.L. 8 出土遺物 (H - 18・19・22 ~ 27・29・30)
調査区全貌 (合併、上が南東)	B - 1 号掘立柱建物跡	P.L. 9 出土遺物 (H - 30・32・33, I - 1,
P.L. 2 H - 1・2 号住居跡	B - 2 号掘立柱建物跡	D - 6・7・10・22・25, P - 42・77,
H - 2 号住居跡の方の工具痕	D - 6 号土坑	W - 3・4・20)
H - 3・4 号住居跡	D - 7 号土坑	

I 調査に至る経緯

平成 27 年 7 月 1 日、開発人である群馬県労働者生活共同組合より当該地での事務所建設工事にあたり、代理人より当該地の「埋蔵文化財事前調査依頼書」が提出される。教育委員会では、当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地「前橋市 0873 遺跡」および「前橋市 0904 遺跡」であり、開発にあたっては、文化財保護法第 93 条第 1 項の届出が必要であり、その際に提出される工事内容を確認して、その取扱いについて協議したいと回答する。同年 9 月 29 日、開発人からの文化財保護法第 93 条第 1 項の届出により工事の概要が提示される。工事の内容からは遺跡の保存に及ぼす影響が大きいことが予想された。また、開発人からは工事計画および内容の変更が難しいとのことから、教育委員会は発掘調査の実施を踏まえ、試掘・確認調査を実施したいと回答する。10 月 2 日、開発人から「埋蔵文化財試掘調査依頼書」が提出され、10 月 31 日、教育委員会は試掘・確認調査を実施した。調査の結果、古墳～平安時代の住居跡等を確認する。教育委員会は、協議の結果、発掘調査を実施し記録保存の措置を執ることで開発人との間で合意を得た。教育委員会では既に直営による発掘調査を実施しており、直営による調査の実施が困難であるため、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」に則り、教育委員会の作成する調査仕様書に基づく監理・指導の下、発掘調査を実施することになり、平成 28 年 1 月 25 日付で開発人と民間調査組織である有限会社毛野考古学研究所との間で発掘調査・整理業務委託の契約を締結された。また、平成 28 年 2 月 3 日、開発人・有限会社毛野考古学研究所・教育委員会との間で三社協定が締結され、同年 2 月 16 日から現地調査が開始された。



II 調査方針と経過

1 調査方針 (Fig.1, PL.1)

本調査では、廃土置場に対処するため委託箇所を半分割し（北西区・南東区）、作業は南東区から北西区の順で進めた。また、隣接する建物の基礎や埋設物に対する安全面を考慮して調査区南東端の一部は着手できなかった。

表土除去は0.45mバックホーを使用し、確認面を前橋市教育委員会による試掘成果からAs-C混入層上面としたが、調査区の南側はHr-FA層の存在が発覚したため当該層上面に変更している。

表土除去後は、作業員による遺構確認ならびに遺構掘削を実施し、遺構掘削は遺物出土状況やベルトないし半截による埋没状況の記録化を踏まえて使用面ないし底面まで掘り下げた。調査は中世以降のAs-B混入土を包含する遺構から開始している。続けて古代の調査に着手したが、想定されていた量の5倍にのぼる遺構の検出は進捗に困難をきたした。また、Hr-FA層下（第2面）から予定しない水田跡が見付かったが、調査工程を鑑み、トレチによる確認で対処した。さらに、水田跡より古い溝跡が、南東区の埋戻し前日である畦畔の断ち割り調査時に発見された（第3面）。トレチなどによる把握に努めたが、期間の関係から既調査の住居跡壁面や掘り方底面およびカクラン壁面などに露出する痕跡の記録に終始する結果となった。

測量や写真撮影による記録保存は、調査の進捗に合わせて適宜実施した。遺構の測量（第一次原図）は平面をトータルステーションで、断面を基準点からの測り込みで対応した。写真記録は35mm判のフィルムカメラ（モノクロ・リバーサル）やデジタルカメラ（1,200万画素相当）を、空撮にはラジコンヘリコプターを用いた。

整理作業にあたって、遺構図面は平面図データと断面図のデジタルトレースデータの修正によって第二次原図を作成した。出土遺物は洗浄・注記・接合・復元の後に、1,200万画素相当の一眼レフカメラによる写真撮影、実測・拓本・デジタルトレースを実施している。最後に、報告書の編集を経て、校正・印刷を進めた。

2 調査経過

【発掘調査】平成28年2月3～13日：現地打ち合わせ・調査準備。15日：調査範囲設定。機材搬入。16日：南東区の表土除去（～17日）。17日：南東区の遺構確認。18日：南東区の遺構調査開始。19日：基準点の設定。3月17日：南東区の空撮。18日：教育委員会による検査。22日：南東区第2面（Hr-FA層下）の遺構調査開始。22日：教育委員会による第2面の検査。27日：南東区の調査終了。28日：南東区の埋戻し、北西区の表土除去（～30日）。29日：北西区の遺構確認。30日：北西区の遺構調査開始。4月26日：北西区の空撮。北西区第2面の遺構調査開始。教育委員会による検査。28日：北西区の調査終了。機材の搬出。

【整理作業】5月2日：出土遺物の洗浄・注記・接合開始。6月14日：遺構図面修正開始。17日：写真整理開始。7月15日：遺物実測開始。8月10日：トレース・版組み開始。9月13日：遺構原稿執筆・編集開始。10月11日入稿・校正開始。10月20日：印刷・製本開始。10月25日：報告書納品・発行。

III 遺跡の位置と環境

1 地理的環境 (Fig.2-3, PL.1)

調査地点は、榛名山の陣場岩屑なだれ（約21万年前）に起因する相馬ヶ原扇状地の末端に位置する。相馬ヶ原扇状地は、浅間山系の前橋泥流（約2.6～27万年前）上を覆って、榛名山南東麓に展開する。陣場岩屑なだれ堆積物上には湿地の展開を示す前橋泥炭層（約1.1万年前）や洪水起源とされる総社砂層が堆積する。

周辺では榛名山麓を源流とする八幡川（滻川）・牛池川・染谷川などの中小河川が扇状地や台地を開析している。本遺跡は滻川（八幡川が天狗岩用水と合流する総社町大字屋敷付近から滻川と名称が変わる）や牛池川に伴う低

地に隣接する。本遺跡の約1km東方にある利根川は、かつて現代の広瀬川を流下しており、15世紀後半に変流したものとされている。遺跡名に冠される「大渡町」の周辺では、大渡の渡しと呼ばれて関所が設置されていた(大渡関所)。江戸時代末期(1858年)に跳ね橋の万代橋を造ったがすぐに洪水で流失し、後に木橋が架けられて大渡橋と名付けられた。現代の大渡橋は1km上流に移設されたものである。

2 歴史的環境 (Fig.2-3, PL.1)

本調査地点は群馬県の中核をなしてきた地域の一角にあり、著名な古墳・官衙・寺院・城郭などの遺構が数多く存在する。それらとの関係を視野に、各時代の様相について概観していきたい。

縄文・弥生時代：活動の痕跡が見られるようになるのは総社砂層の堆積によって台地が安定する縄文時代前期後半から後期前半で、集落が河川流域の高台に散在する。上野国分僧寺・尼寺中間地城では加曾利EⅢ式期の拠点的な集落が報告された。本遺跡から滝川上流700mほどのところにある産業道路東遺跡で中期後半、産業道路西遺跡で後期前半の住居跡が確認されている。一方、後期前葉～晩期および弥生時代前・中期の痕跡は低地付近に散見され、元總社蒼海遺跡群(9)では安行3c式期の堅穴住居跡が検出された。弥生時代後期になると再び台地上に集落が営まれるようになり、上野国分僧寺・尼寺中間地城や日高遺跡では方形周溝墓が伴う。

古墳時代：遺跡数が飛躍的に増大する。総社地区に集中する総社古墳群を中心に大規模な古墳が群び、5世紀後半の遠見山古墳(全長70m)をはじめ、6世紀初頭の初期横穴式石室をもつ王山古墳(全長76m)、6世紀後半の総社二子山古墳(全長90m)といった前方後円墳が築造される。7世紀になると前半の愛宕山古墳、後半の宝塔山古墳(全長54m)、終末の蛇穴山古墳(全長43m)といった大型方墳が造り続けられた。当該期には東日本有数の白鳳寺院である山王庵寺(放光寺)が建立され、その卓越した石造技術は前述した方墳との関連を示す。また、上野地域を治めていた「上毛野氏」とその中心地「車評」との関係が指摘してきた。なお、本遺跡から北西400mのところには稲荷山古墳の存在が記録されている。

多数の集落が台地上に設けられ、本遺跡から滝川上流約500mにある稲荷塚道東遺跡では前期から後期にいたる住居跡が検出された。終末期には大規模な掘立柱建物跡が確認されるようになるが、国府創建期以後の建物が正方位の主軸を採用することに対して、斜行する傾向が指摘されている。生活基盤となる水田の開拓は小河川に

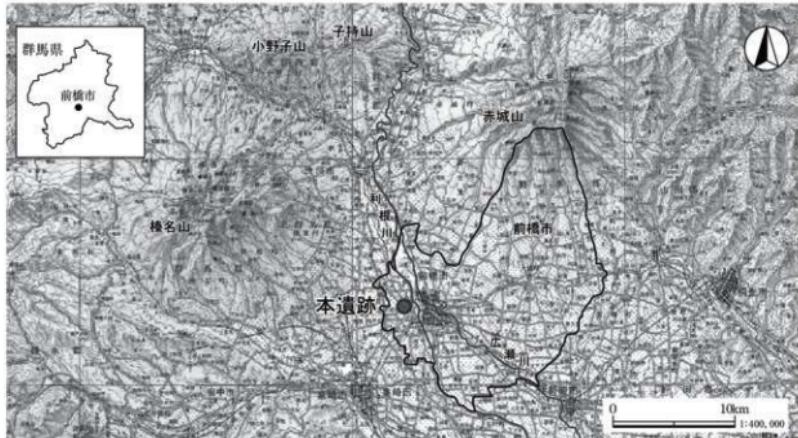


Fig. 2 遺跡位置図(国土地理院発行『宇都宮・長野』1/200,000を50%縮小)

沿った後背湿地に集中する。水田跡は牛池川沿いの元総社明神遺跡、元総社蒼海遺跡群（19）、総社閑泉明神北遺跡、総社閑泉明神北V遺跡、元総社北川遺跡、元総社寺田遺跡でHr-FA層下あるいはHr-FP泥混層下から、元総社明神遺跡、元総社寺田遺跡でAs-C混土層下から検出されている。本遺跡から滝川（八幡川）上流25kmほどになるが、北原遺跡ではHr-FA層下水田が広範囲に調査された。畠跡は元総社明神遺跡、元総社蒼海遺跡群（16）、総社甲稲荷塚大道西III遺跡、総社甲稲荷塚大道西IV遺跡でHr-FA層の上面ないし下面、元総社西川遺跡、総社閑泉明神北遺跡、総社閑泉明神北IV遺跡でAs-C混入層下から検出されている。

奈良・平安時代：元総社地区において、上野国府・国分僧寺・国分尼寺が置かれ、古代上野国の中枢を担う地域へと編成される。上野国府の範囲は不明瞭な部分が多いものの、元総社蒼海遺跡群域に想定されている。この他、鳥羽遺跡で神社遺構、中尾遺跡で工房跡などが検出された。また、東山道（国府ルート）や日高道といった官道の存在も明らかになりつつある。

一般的な集落は国府や寺城を避けるようにして数多く存在する。本遺跡周辺では前述した稻荷塚道東遺跡で古墳時代以来の集落が継続すると共に、本遺跡の1次調査にあたる大渡道場遺跡No.1では平安時代の住居跡が調査されている。当地域の特異な例として、稻荷塚道東遺跡、大型敷地跡、元経社蒼海遺跡群（7・9・10）元経社小見内Ⅵ遺跡、鳥羽遺跡においてカマドの構築材に使用する凝灰質砂岩の切り出し場が見付かっている。近隣で

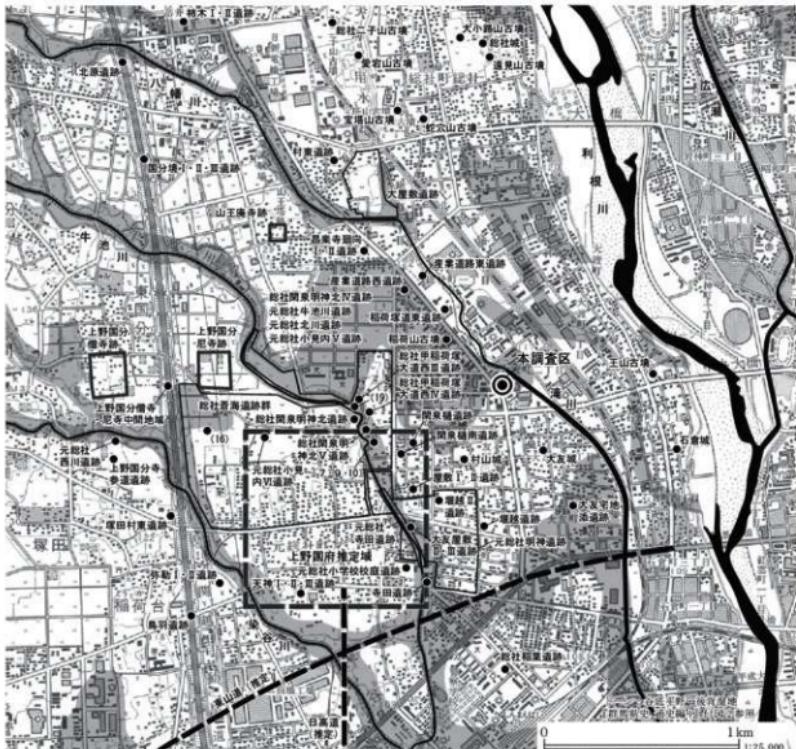


Fig. 3 遺跡分布図（国土地理院発行「前橋」1/25,000）

は耕作遺構は少なく、水田跡は国府城の南側に展開する条里水田が著名である。元総社北川遺跡では Hr - FA 泥流（6世紀初頭）や Hr - FP 泥流（6世紀中葉）の上位面を働き込む島跡が広範囲に調査された。

中・近世：室町時代に上野国守護上杉氏から守護代に任命された長尾氏が蒼海城を本拠地とした。その城は上野国府の地割を利用したものとされ、複雑な列郭式構造をもつ。中尾城に代表される環濠屋敷も散見され、大渡道場跡No.1では蔵骨器や埋納備蓄錢などとともに調査されている。戦国期には上野国も小田原北条氏、甲斐武田氏、越後上杉氏による羈権争いの場となった。本遺跡周辺では武田信玄が厩橋城の上杉謙信と交戦するために築いた石倉城をはじめ、大友城や北条氏直の配下、村上佐渡守の居城である村山城といった城館が造られた。

江戸時代になると、河岸段丘を利用した総社城が築かれる。城主である秋元長朝は、領内の経済基盤を安定させるため天狗岩用水を開削した(1604年)。本遺跡に近在する丁間稻荷神社の塚は用水掘削の基準となる測量器(丁間台)を据えた場所と伝えられている。

IV 標準堆積土層 (Fig. 4. 卷頭寫真 1)

標準堆積土層の観察は調査区の南西壁中央に設けたトレンチで実施し、深い部分は井戸跡（I-2）の壁面を利用した。その結果、I～XII層が確認され、IV層はH-1号住居跡やD-16号土坑内にのみ残存していた。

I層は盛土で、現代の駐車場付設時(a)と方形状の基礎搅乱を伴う建物造成時(b)に起因する。II層は浅間A軽石(As-A: 1783年降下)の混入土層にある。III層が浅間B軽石(As-B: 1108年降下)の混入土層、IV層がその一次堆積層である。IIIa層は浅間-柏川テフラ(As-Kk: 1128年降下)をブロック状に含む。V層は榛名山二ヶ岳・渋川テフラ(Hr-FA: 6世紀初頭降下)の混入土層、VI層はその一次堆積層および泥流層である。VI層の堆積は低地の調査区南側に限られたが、北側でも斑紋状に散在していた。VII-VIII層は浅間C軽石(As-C: 3世紀後半-末頃降下)の混入土層で、VII層は浅黄色シルトブロックを包む。IX-X層は均質な粘質土から成り、IX層が黒色、X層が褐灰色を呈する。XI層はシルト主体の洪水層で総社砂層に、XII層は前橋上部泥炭層に相当する。



Fig. 4 標準堆積土層柱状図

V 遺構と遺物

1. 遺跡の概要 (Fig.5-6, PL.1)

調査区の北東側が滝川に接するが、確認面は弱冠の傾斜が認められる程度である。ただし、 $Hr - FA$ 一次堆積層を剥した As - C 混入土層上面を基準にすると南側から南東側が低くなってしまい、火山降下物や泥流によりはなはだしく地形を目の当たりにする。

遺構は堅穴住居跡32軒(H-1~33, H-10欠番)、掘立柱建物跡2棟(B-1・2)、井戸跡2基(1-1・2)、土坑23基(D-1~25, D-23・24欠番)、ピット114基、溝跡20条(W-1~20)、耕作痕(畠・水田跡)7箇所(N-1~7)が確認された。多くは古墳時代末期~平安時代に帰属する。重複する住居群に加えて、井戸、区画溝、畠が組成する。H-1号住居跡、D-16号土坑はAs-Bの純層が床面上に堆積する特異な事例である。

遺構全体図〔第1・3面〕

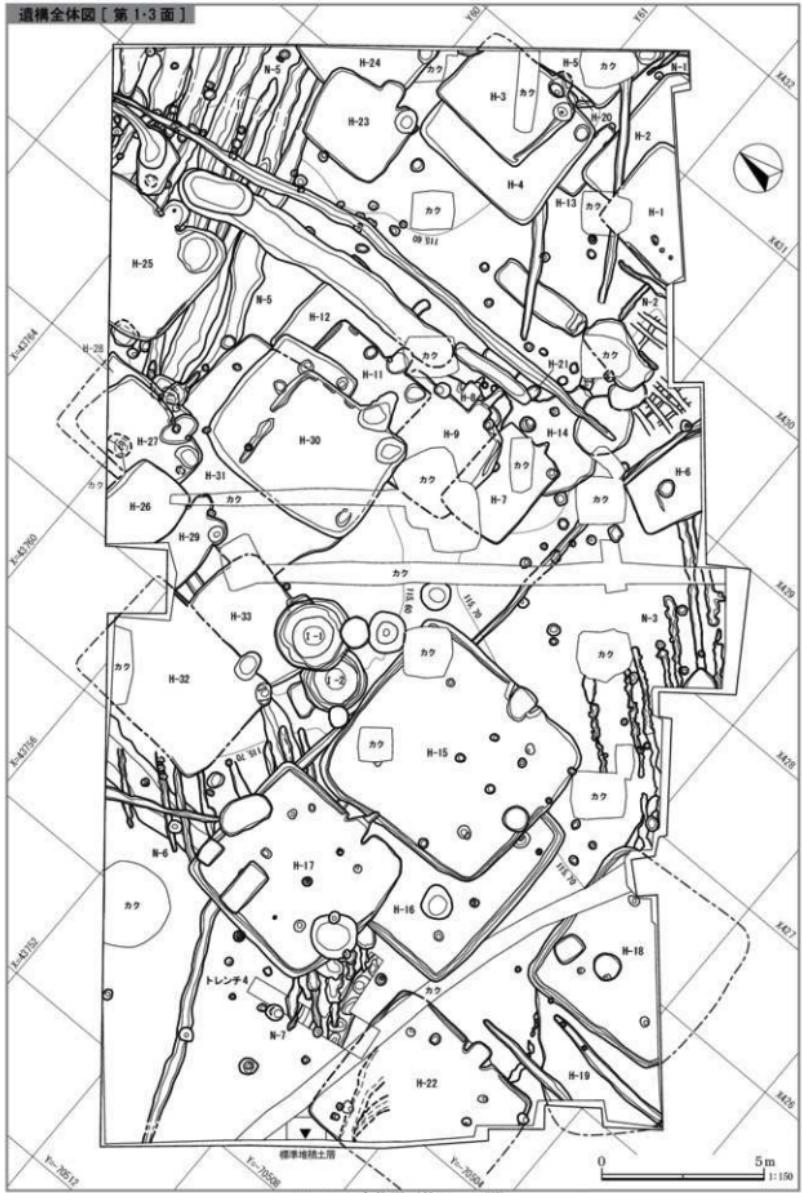


Fig. 5 全体図(第1・3面)

全体図〔第2面、Hr-FA層下面〕

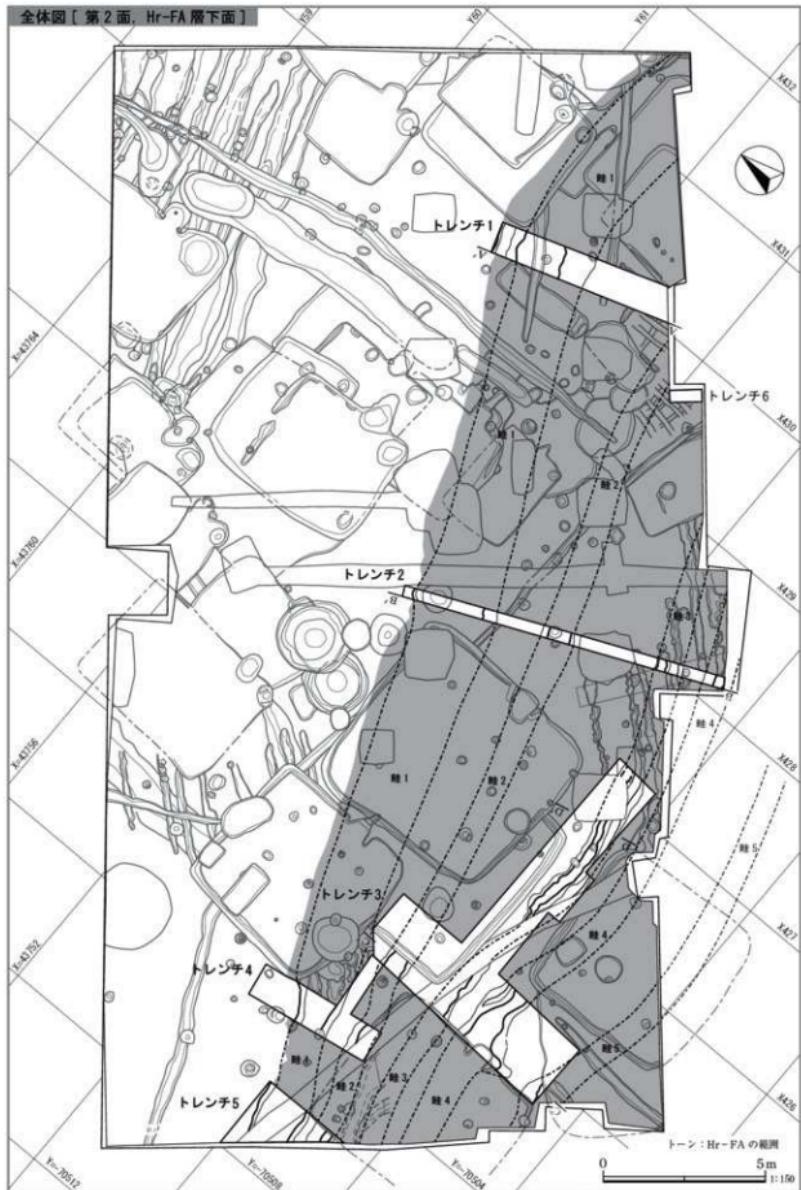


Fig. 6 全体図（第2面）

また、覆土に As - B を混入する B - 1 号掘立柱建物跡や D - 1 ~ 4・14・15・19 ~ 21 号土坑などは中世以降に比定される。Hr - FA 一次堆積層直下では水田跡を検出した (N - 4)。上層に Hr - FA が見られる W - 11・15・17 は Hr - FA 降下時に埋没が進行していた溝に当たる。As - C しか混入しない溝跡 (W - 9・10・18・19) や畠跡 (N - 5) の時期は、出土遺物から勘案して古墳時代前期に想定される。

遺物は収納箱 (60 × 44 × 15cm) で 12 箱分が検出された。縄文土器片 (加曾利 E III 式)、土師器、須恵器、羽釜、灰釉陶器、近世陶磁器、石器 (打製石斧)、石製品 (紡錘車)、鉄製品 (鎌・鎌)、銅製品 (飾金具)、歯骨などが出土し、土師器や須恵器がそのほとんどを占める。

2. 壊穴住居跡 (遺構 : Fig.7 ~ 15, PL.2 ~ 4, 卷頭写真 1, Tab.1 / 遺物 : Fig.21 ~ 23, PL.7 ~ 9, Tab.6)

西端を除く調査区全体から検出され、重複が著しい。古墳時代末期～平安時代（7世紀後半～12世紀初頭）に帰属する。平面形態は正方形・主軸方向に長い長方形（長方形 A）、主軸方向が短い長方形（長方形 B）が受けられ、長方形 B が過半数を越え（54%）、正方形が続く（25%）。不整形の H - 14 号住居跡は掘り込みが浅く、近接する土坑群などと混同した懸念がある。H - 31 号住居跡は南壁が不整であり他遺構の重複などを考慮する必要があろう。H - 26・29 号住居跡は調査前の平面確認で切り合いを判定したが、その形状から 1 つの住居跡である可能性が浮上する。主軸方位は真北に近いものが大方を占める (H - 19・20 は例外)。覆土は締りや粘性が非常に強く、隣接する大渡道場遺跡 N1 とも異なる。H - 2・13・22・31 号住居跡など前半期の壊穴覆土には暗灰黄色など明るい色調を呈するものが目立ち、他の遺構による開削がおよぶ以前の土壤が関与する。覆土内には As - C や Hr - FA が混入する。H - 1 号住居跡は、床面上に厚さ 0 ~ 3cm の埋没土層を介するものの純層の As - B が厚く堆積し、降下ユニットに乱れがないことから降灰時には屋根などが撤去されて開口していた状況が窺われる。As - B 層直下の床面は鉄分による異常な硬化・赤化が進み、軽石の隙間を滲みでてきた黒色泥で浸されていた。なお、上層の As - B 混入土層中には 20 年後に降下する As - Kk のブロックを混入しており、その埋没過程を検分することができる。H - 4・9・11・15・24・25・33 号住居跡には床面の改修や硬化を示唆する複数重の貼り床をもち、鉄分の沈着や灰が敷かれる事例も見られた。H - 2 号住居跡では主柱穴の掘り方から 2 度の建て替えが、H - 24・25・30 号住居跡は周溝や掘り方の段差から壊穴の改修や拡張が予想される。掘り方は工具痕が顕著に残る傾向にあり、礫際を溝状に掘り込むものが多い。床下土坑も散見された。

カマドは東壁に付設される (H - 14 のみ北壁)。その構築材には内側の被然痕がないと遺構覆土との区別が難しい粘質土が用いられた。Hr - FA の使用も認められる (H - 8・27)。また、H - 13 号住居跡で安山岩、H - 11・17・25・27 号住居跡で凝灰質砂岩を芯材に利用していた。H - 25 号住居跡の芯材がカマド下の掘り込み内からも出土したことは、カマドの使用時でもカマド下は大きく窪んでいたことを裏書きする。H - 22・25 号住居跡では凝灰質砂岩製の支脚が出土した。

出土遺物は H - 15・18・25・30 号住居跡でまとめて出土したが、H - 15 号住居跡などは細片が多い。特異な遺物として、常盤型須恵器環に似た土師器環 (H - 29)、内面にカキメを持つ須恵器蓋 (H - 6)、上野型短頭蓋の蓋片 (H - 7, 未掲載)、須恵器把手 (H - 18)、暗紋を持つ土師器環片 (H - 10・12・14・27)、銅製飾金具 (H - 22)、石製紡錘車 (H - 2) が挙げられる。H - 30 号住居跡の須恵器環 6・10 は入れ子状に重なった状態で出土した。その他、鉄製品 (H - 3 ~ 5・15 ~ 17・25・32)、鉄滓 (H - 16・17・30・33)、H - 16 は大型の椀型滓、菰編石 (H - 15 ~ 17)、塩の運搬に関連する貝巣穴泥岩 [坂本 2015] (H - 9・15・19)、焼成粘土塊 (H - 1・14・17・23・27・32) が検出された。H - 17 号住居跡では縄文時代の損傷の少ない打製石斧が出土したが、共伴する菰編石の代用品として持ち込まれたことが想察される。H - 1 号住居跡で浅いピット状の窪地上において骨片が出土した。また、H - 3・4 号住居跡の馬歯は馬の埋葬や道楽を想させる。H - 9 号住居跡のカマド内でも骨細片が採取された。

3. 挖立柱建物跡 (遺構: Fig.16・17, PL.4, Tab.2)

B-1号掘立柱建物跡は覆土にAs-Bを混入するピットで構成される (P-8~12・14~16・20~24・68・71・74・76~78)。深いピットには段が付く。時期は近世に通有な柱穴配置やAs-Aを混入しない覆土より17・18世紀代に比定される。B-2号掘立柱建物跡は調査区北側で一角が検出された。平面が隅丸方形を呈する大型の柱穴で構成され (P-100・112・118)、柱痕や水平で薄い層が重積する根固めが見受けられる。主軸は律令期に一般的な真北を向くが、重複する8世紀前半の住居跡が造られる段階には廃絶していることになる。

4. 井戸跡・土坑 (遺構: Fig.16・17・18, PL.4・5, Tab.3 / 遺物 Fig.23・24, PL.9, Tab.6)

I-1・2号井戸跡は漏斗状を呈し、上端に段をもつ。I-1号井戸跡の深さは約2.4mで、I-2号井戸跡は2.8m掘り下げるでも底面に達しなかった。なお、I-1・2号井戸跡の下半部には径10~20cmほどの扁平円窓が多数充填されていた。また、上～中層から出土した須恵器瓶がH-25号住居跡7と接合しており、8世紀後半には埋没が進行していたことが窺われる。I-1号井戸跡は重複するI-2号井戸跡が埋没してから掘削されているが、上層出土の遺物から9世紀前半には埋没していることが明らかとなった。D-7号土坑もその形状から井戸跡の可能性が高い。I-1・2号井戸跡より小型で、残存状態の良好な遺物が多く出土した。

土坑は平面が非常に細長い長方形のものなど、多様な形態が見受けられる。覆土はAs-CやHr-FAが混じり、D-16号土坑では一次堆積のAs-Bが、D-1~4・14・15・19~21号土坑ではAs-B混入土が埋没する。D-22号土坑の底面では薄い炭化物層を検出したが、同様の状況が見出されたW-20号溝跡の一部かもしれない。D-25号土坑もH-10号住居跡に伴う張出部分の可能性がある。出土遺物は概して微量かつ細片だが、D-10号土坑でやや多く出土し、有孔の脚付盤が出土した。D-6号土坑の南側には須恵器壺の大型破片がまとまっていた。D-25号土坑の坏2・3は入れ子状に重ねられた状態で検出されている。

5. ピット (遺構: Fig.17 / 遺物 Fig.24, PL.9, Tab.6)

調査区南東側に多量のAs-Bを覆土に含むピットが遍在しており (P-1~26・68~80・120)、B-1号掘立柱建物跡に関与するものである。他のピットは褐灰色土 (P-89~95・97・98・119・124・125・132は黄灰色土) にAs-CやHr-FAを含む古代に帰属する。W-3・20号溝跡周辺に集中しており、その新旧関係から溝による区画以前は横などで対応していたことが連想される。遺物はいずれも微量で、そのなかでもP-42で接合により復元の進んだ土師器坏が、P-42・81で暗紋を持つ土師器坏片が、P-10・77で鉄製品が出土した。

6. 溝跡 (遺構: Fig.17・18・19, PL.5・6, Tab.4 / 遺物 Fig.24, PL.9, Tab.6)

W-1~7・12~14・20号溝跡はHr-FA層上で見付かり、覆土にAs-CやHr-FAを含む。形状は概ね直向する。W-2・5・13・14は重複する住居跡より新しいことが断面で辛うじて観察できたものの、平面形態を把握するには至らなかった。これらは流水の痕跡がないことから、区画を目的とした溝に想定される。W-20号溝跡は遺物がやまとまって出土したこと加えて、薄い層をなす炭化物やカマドの心材に使用されるような礫群が散見された。W-8号溝跡はHr-FA軽石が溜まる浅い溝で、自然の營為による可能性がある。

W-15号溝跡はブロック状のHr-FAが、W-16・17号溝跡はHr-FA泥流が上層に堆積するもので、降灰期には埋没が進行して浅くなっていた。下層に砂が堆積するW-16・17号溝跡は水路と考えられる。

W-9~11・18・19号溝跡は覆土にHr-FAがなく、W-18号溝跡からはS字形状縁台付甕片が出土していることから古墳時代前期の所産と想定される。溝は調査区南西～東側に延びるようだが、調査期間の制限によりトレレンチ調査や住居跡掘り方などによる観察に留まるため、対応関係を取り違えている危険性が残る。

7. 耕作痕（遺構：Fig.6-7・10-17・19-20, PL.6, 卷頭写真2, Tab.5）

Hr - FA 一次堆積層ないしその泥疊層上では耕作の不明瞭な痕跡が一樣に見られるなかで、N - 1 ~ 3・6・7号耕作痕では底面に工具痕をもつ畠間溝が検出された。N - 1・2号耕作痕は一連の可能性があり、同方向、直行方向の畠替えが重複する。N - 3・6号耕作痕も一連のものと考えられ、同方向の畠間を60cmほどずらせた2時期の畠替えが想定される。H - 6号住居跡を壊しており、8世紀前半以降に帰属する。N - 7号耕作痕は主軸がN - 3・6号耕作痕に似るが、一部に東から西側への異方向に走行する深い耕起痕が見られた。

N - 5号耕作痕も畠跡に想定されるが、覆土にHr - FAがなく、底面に砂が堆積する。S字状口縁台付甕片が出土することから、古墳時代前期に帰属する可能性が高い。同方向の畠替えが頗出し、畠間の溝が折り重なっている。調査区壁面を観察すると、上層にはHr - FA 降灰後の掘り込みも認められた。

N - 4号耕作痕はHr - FA 一次堆積層直下で検出された水田跡である。低地に沿った4条の縱畔が確認できた（畔3・4間は狭いことから水路としての機能が想起される。畔4・5間は作付が行われた部分で、トレシチ3で水口を伴う横畔が検出された。幅2mほどの小区画水田が営まれていたと推測される。他と比べて低い畔2は、古い畦畔が残存したものと思われる。畔1は低地に沿った段状を呈し、幅広い平坦面を持つ。

Tab. 1 積穴住居跡一覧表

計測値 (m)

遺構名	重複・新旧関係	平面形態	規 模	方 向	壁周囲	貯蔵窓	主柱穴	カマド	道物	時 期	備考
		主軸	副軸	深さ	(N-E)		位置	被構造			
H - 1	H2.W1.9-10→本道構	矩 形	(3.16)(3.20)	0.49	90°	西壁	未検出	なし	未検出	未検出	微量
H - 2	本道構→H1.13.W1.9-10	矩 形	4.57	(3.86)	0.26	90°	未検出	未検出	4本柱	未検出	未検出
H - 3	H4.20-4.5道構→H5.08.P2'	長方形B	2.88	(3.43)	0.17	95°	南壁	東頭	なし	東頭南寄り	なし
H - 4	H3.20-W11-4.5道構→H3.W2	長方形B	3.88	(4.50)	0.21	91°	なし	東頭	なし	東頭や少南寄り	なし
H - 5	H3.20.N1-4.5道構→W1	矩 形	(2.42)	(2.49)	0.26	94°	未検出	南頭	なし	未検出	少量
H - 6	木-道構→W5.P26.N3-7'6	長方形A	(2.66)	(2.19)	0.14	115°	未検出	未検出	4本柱	未検出	刀子出土
H - 7	H9.14-4.5道構→P43	長方形A	1.38	(2.29)	0.17	90°	未検出	未検出	4本柱	未検出	8世紀
H - 8	木-道構→H9.P31.P41	矩 形	(0.53)	(2.30)	0.13	88°	未検出	未検出	未検出	VII層土	微量
H - 9	H8-木道構→H7.11-30.P31/P41-43	長方形B	3.26	3.96	0.25	90°	未検出	未検出	なし	東頭南寄り	なし
H - 10	欠番（H - 30mに変更）	長方形B	3.26	3.96	0.25	90°	未検出	未検出	なし	中量	8世紀後半
H - 11	H9.12-木道構→H10.D25.P96	矩 形	(1.65)	(3.67)	0.30	90°	北壁	東頭	なし	東頭や少南寄り	砂岩
H - 12	木道構→H1.13.D25.W20-P96	正方形	3.77	3.73	0.50	94°	未検出	未検出	未検出	未検出	少量
H - 13	木道構→H2.4	矩 形	2.02	(0.68)	0.15	90°	未検出	未検出	未検出	東頭南寄り	安山岩
H - 14	木道構→H7.D10.P50.W3.4/H21.42-62	不整形	2.91	(2.40)	0.10	45°	未検出	なし	なし	北東頭西北隅	未検出
H - 15	H16-木道構→H17.B1.332.P10-12-15-18-22.W5/W13	正方形	6.34	6.56	0.22	90°	ほぼ全周	東頭	4本柱	東頭や少南寄り	粘質土
H - 16	W10.18-N8-木道構→H15.21.LD1.P14-21.LN7	正方形	6.26	6.22	0.20	92°	〔全周〕	なし	4本柱	東頭中央	未検出
H - 17	H15.16.BL1.15-17-18-木道構→D16.19-21.27.78/W13.14.N6.7	正方形	5.12	5.30	0.29	93°	ほぼ全周	なし	4本柱	東頭や少南寄り	粘質土
H - 18	H19.W8-木道構→D3.4.P19	正方形	3.28	(5.00)	0.33	87°	〔全周〕	未検出	4本柱	未検出	未検出
H - 19	W8.N4-木道構→H18.P19.W6.7	矩 形	3.98	-	0.21	45°	未検出	未検出	なし	未検出	少量
H - 20	木道構→H3.5	不 明	-	-	0.22	46°	南西頭	未検出	未検出	未検出	微量
H - 21	H14.W4	不 明	-	-	0.15	95°	未検出	未検出	未検出	未検出	なし
H - 22	W8-10.34-木道構→B1.P23-60-61-80-120	長方形B	5.08	5.58	0.15	92°	北・南・東壁	未検出	4本柱	東頭や少南寄り	粘質土
H - 23	H24.P65-90.N5-木道構	長方形B	2.62	3.08	0.12	83°	なし	南東頭	なし	東頭南寄り	粘質土
H - 24	N5-木道構→E23	長方形B	(2.86)	(3.08)	0.51	94°	未検出	南東頭	なし	未検出	10世紀前半
H - 25	H25.N5-木道構→D17.P12.1	長方形B	3.99	(4.29)	0.43	87°	南壁	東頭	なし	東頭や少南寄り	砂岩
H - 26	H27-29-31-木道構→E28.31.E2.P1.21	矩 形	(2.86)	2.25	0.27	92°	未検出	未検出	なし	未検出	少量
H - 27	H28.31.E2.P1.21-木道構→H26.P1.21	長方形B	(2.03)	3.65	0.26	98°	未検出	南東頭	なし	東頭南寄り	砂岩
H - 28	H31.B2.N5-木道構→H26-27	正方形	3.00	(3.20)	0.33	92°	未検出	未検出	なし	東頭南寄り	微量
H - 29	H31.P1.30.W16-木道構→H26-27	矩 形	(2.56)	(1.50)	0.25	88°	未検出	南東頭	なし	東頭南寄り	なし
H - 30	H26-32.P82	長方形B	3.06	4.24	-	90°	北・東壁	未検出	未検出	未検出	-
H - 30b	H9.11-31-木道構→I.225.P84	長方形B	3.96	5.46	0.43	90°	なし	南東頭	なし	東頭南寄り	大量
H - 31	N5-木道構→E26-30-33/P82-84-130-113	長方形B	(5.49)	6.54	0.26	95°	未検出	未検出	不明	未検出	微量
H - 32	H29-33.W16-木道構→N6	長方形B	3.79	(5.16)	0.13	93°	東壁	東頭	なし	東頭南寄り	なし
H - 33	H3.33.W16-木道構→N2211	長方形B	3.88	3.95	0.03	102°	なし	未検出	未検出	未検出	微量

平面形：長方形A - 主軸幅が長い、長方形B - 副軸幅が長い 方向：NからEの方向へ計測

(+)：推定値、(-)：残存値

Tab. 2 振立柱建物跡一覧表

遺構名	位置	重複・新旧関係	平面形態	長軸	短軸	深さ	方向	遺物	時期	計測値(m)	
B - 1 西~南側	H15 - 17-22D16.N4 -本造築	3.5間以上×2.5間	10.40	6.50	-	11°	微量	17~18世紀	ビット深度 8~50cm		
B - 2 北側	N5 -本造築→H25-27-28	1間以上×1間以上	[3.78]	[3.30]	-	3°	微量	8世紀前半以前	ビット深度 44~83cm		

Tab. 3 井戸跡・土坑一覧表

遺構名	位置	重複・新旧関係	平面形態	断面	長軸	短軸	深さ	方向	遺物	時期	計測値(cm)	
I - 1 中央	H13.12 -本造築→D15	円形	湖斗状	236	226	238	-	微量	9世紀前半			
I - 2 中央	D18 -本造築→II.D14	円形	湖斗状	191	[132]	[271]	-	微量	8世紀後半	H25出土遺物と接合		
D - 1 南側	H16 -本造築	不整形円形	弧状	194	99	11	55°	微量	中近世			
D - 2 南側	H15 -本造築	円形	逆台形	80	80	9	-	微量	中近世			
D - 3 南側	H18 -本造築	隅丸長方形	逆台形	90	74	12	110°	微量	中近世			
D - 4 南側	H18 -本造築	円形	逆台形	88	82	20	-	微量	中近世			
D - 5 東側	本造築→W-2-18	長方形	逆台形	318	95	20	179°	微量	-			
D - 6 東側	D9 -本造築→N2-T9	不整長方形	不整形	238	116	39	12°	微量	古墳後期			
D - 7 中央	H1 -本造築	円形	湖斗状	112	97	85	52°	少量	8世紀後半	井戸に想定		
D - 8 北東側	H3 -本造築	円・楕円形	逆台形	-	34	-	なし	-				
D - 9 東側	本造築→D6-D10	円形	逆台形	[139]	[164]	12	140°	微量	-			
D - 10 東側	H14 -本造築→W3-D9	円形	逆台形	[186]	172	16	60°	中量	7世紀後半	有孔の原形器盤出土		
D - 11 南側	N3 -本造築	矩形	逆台形	[80]	[80]	12	89°	微量	-			
D - 12 東側	本造築→W3-W4	円・楕円形	逆台形	125	120	7	-	微量	-			
D - 13 中央	N4 -本造築	円形	逆台形	90	[86]	37	-	微量	-			
D - 14 中央	H2.W13 -本造築	椭円形	不明	70	60	4	42°	微量	中近世			
D - 15 中央	H1.D7 -本造築	円形	不明	93	93	2	-	微量	中近世			
D - 16 西側	H17.N7 -本造築→ILP78-79	円形	不整形	140	134	10	-	微量	12世紀初頭			
D - 17 北側	H25.N5.P119-136 -本造築→W12	不整形円形	逆台形	212	131	18	59°	微量	9世紀			
D - 18 中央	本造築→12	不整形円形	逆台形	110	[54]	5	30°	微量	-			
D - 19 西側	H17.N14.N36 -本造築	円形	不明	168	99	6	115°	微量	中近世			
D - 20 西側	H17 -本造築	長方形	逆台形	160	78	16	91°	微量	中近世			
D - 21 西側	H17 -本造築	長方形	長方形	28	54	32	84°	なし	中近世			
D - 22 北側	W20 -本造築	格子形	弧状	222	110	34	156°	微量	9世紀後半			
D - 23 矢畚 (W - 20・12重里)												
D - 24 矢畚 (W - 20・12重)												
D - 25 中央	H12 -本造築→H11-30	長方形	逆台形	283	64	26	172°	小量	-			

Tab. 4 溝跡一覧表

遺構名	位置	重複・新旧関係	平面形態	長さ	幅	深さ	方向(N→E)	遺物	時期	計測値(m)	
W - 1 東側	H2-5 -本造築→H1	直向	直角	6,94	0,28	158°	微量	-	微量	-	
W - 2 東側	H4.D5.P6-3 -本造築	直向	直角	14,00	0,40	0,11	57°	微量	-		
W - 3 北東・東側	H14.87-88-91-92-93-103-105-107-125D10-12W19.N5 -本造築	やや屈曲	[18.82]	0,52	0,33	0° ~ -12°	少量	8世紀後半			
W - 4 東側	H14 -本造築→H2.D12	直角	直角	2,86	0,54	0,28	177°	少量	9世紀		
W - 5 中央・東側	H6-15.P33 -35 -本造築→P30	やや渦曲	[9.68]	0,30	0,12	93° ~ 102°	なし	-			
W - 6 西側	H19.W8 -本造築	直角	直角	[3,56]	0,36	0,11	3°	微量	-		
W - 7 西側	H19 -本造築→P17-18	直角	直角	[4,66]	0,36	0,14	4°	微量	-		
W - 8 南西・南側	本造築→H18-19-22.P56.W6,N3	弯曲	[9.98]	0,32	0,04	73 ~ 83°	なし	-			
W - 9 南西・東側	本造築→H1-22.W10.N4	直角	直角	[1,00]	0,36	0,30	95°	なし	古墳前期	Hr - FA層下検出	
W - 10 南西・東側	W9 -本造築→H1-21-22	直角	直角	[2,70]	0,26	0,75	-	なし	古墳前期	Hr - FA層下検出	
W - 11 南西・東側	本造築→H17-18.W18.N4	直角	直角	[0,53]	0,06	0,14	80°	微量	古墳中後期	上層に Hr - FA 層	
W - 12 北側	W19.D7.N5 -本造築	直角	直角	[2,50]	0,84	0,23	22 ~ 30°	微量	9世紀		
W - 13 中央	D14.W6.N5 -本造築→H15-17	直角	直角	[2,50]	0,36	0,16	97°	なし	-		
W - 14 西側	W17.N6 -本造築→D14-H17	直角	直角	[3,78]	0,40	0,09	152°	なし	-		
W - 15 西側	本造築→H17.P126	直角	直角	[7,67]	0,42	0,11	65 ~ 86°	なし	古墳中後期	上層に Hr - FA 層	
W - 16 中央	本造築→H17-29-32-33.W13.N6	やや渦曲	[6,66]	0,06	0,23	18 ~ 25°	微量	古墳中後期	上層に Hr - FA 層		
W - 17 西側	本造築→H17.W14.P115-117.N6	直角	直角	[4,12]	1,38	0,31	4°	微量	古墳中後期	上層に Hr - FA 層	
W - 18 南西・東側	W11 -本造築→H16.D5.N4	弯曲	[3,00]	0,70	0,68	80°	微量	古墳前期	Hr - FA層下検出	底面に多数のビット(深度12~20cm)	
W - 19 北側	本造築→W-12.P109-110-N5	弯曲	[2,23]	0,40	0,24	83 ~ 110°	なし	古墳前期			
W - 20 北・東側	H12.P124.N5 -本造築→D22	やや渦曲	[8,74]	1,34	0,34	0 ~ -8°	中量	9世紀	D - 23 から名称変更		

Tab. 5 耕作痕一覧表

遺構名	位置	重複・新旧関係	種別	耕作痕	箇所	深さ	方向(N→E)	遺物	時期	計測値(cm)	
N - 1 東側	H5 -本造築	島	7 ~ 16	-	1 ~ 9	4° ~ 104°	なし	-	異方向に耕替		
N - 2 東側	D6 -本造築	島	6 ~ 29	28 ~ 88	2 ~ 7	-6 ~ 14° ~ 90 ~ 100°	少量	-	異方向に複数回の耕替		
N - 3 南・南東側	H6.P59 -本造築→ILP1-3-4-56.W8	島	8 ~ 36	33 ~ 120	2 ~ 11	41° ~ 43°	微量	-	同方向に2回耕替		
N - 4 南西・東側	W9-11-18 -本造築→H16-19-22.B1.D13	田畠	74 ~ 126	30 ~ (218)	4 ~ 11	67 ~ 92°	なし	6世紀初頭	Hr - FA層下検出		
N - 5 北・北東側	H23-24-25-28-31.B2.D17, P85-89-101-106-108-111-114-121-123-128-132-134-136.W3-12-20-W19	島	19 ~ 110	34 ~ 127	4 ~ 41	70 ~ 73°	微量	古墳前期	同方向に複数回の耕替		
N - 6 中央・西側	W16-17 -本造築→D19.P117.W13-14/H17-32	島	15 ~ 39	52 ~ 118	2 ~ 17	38° ~ 40° ~ 38 ~ 43°	なし	-	同方向に2回の耕替		
N - 7 西・南西側	本造築→D16.P68-79.H16-17	島	10 ~ 54	42 ~ 84	1 ~ 26	43 ~ 56°	微量	-	深い耕刻痕と重複		

耕作痕の開拓は色々で計測

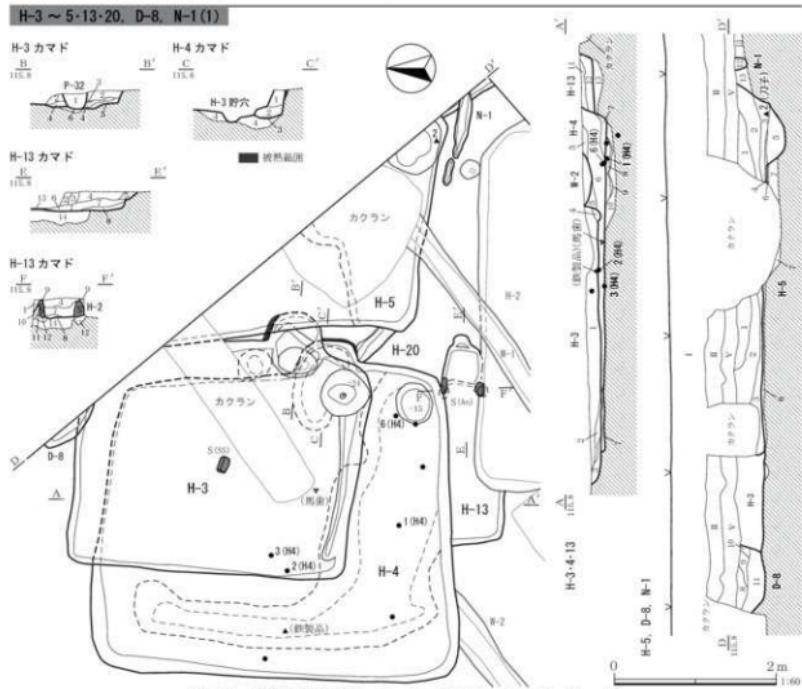
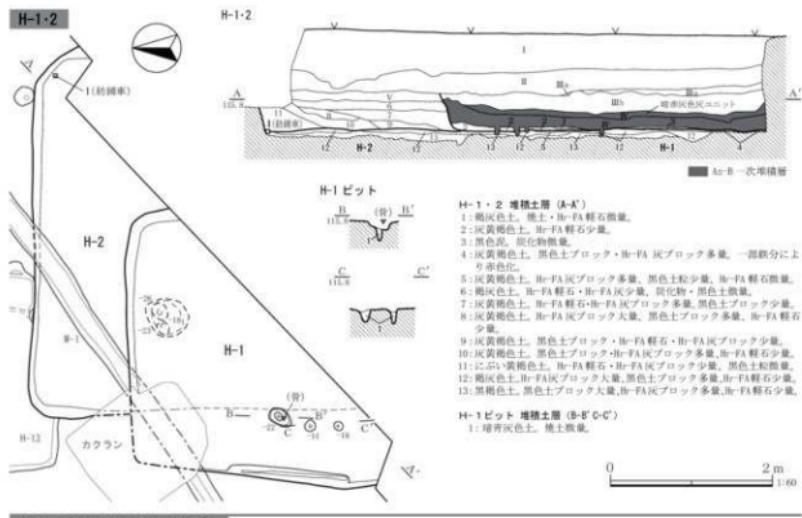


Fig. 7 遺構実測図 (H-1 ~ 5 · 13 · 20, D-8, N-1)

H-3 ~ 5·13·20, D-8, N-1 (2)

H-3カマド 埋積土層 (B'-B')

- 1: 墓灰黃色土。燒土-H-F-A輕石-H-F-A灰少量、
氯化物微量。
 - 2: 墓灰黃色土。燒土-H-F-A輕石-H-F-A灰少量、
氯化物微量。
 - 3: 灰色土。
 - 4: 灰色土。碳灰土ブロック多量、燒土微量。
 - 5: 墓灰黃色土。H-F-A石微量。
 - 6: 墓灰黃色土。燒土-氯化物少量、H-F-A輕石-
H-F-A灰微量。

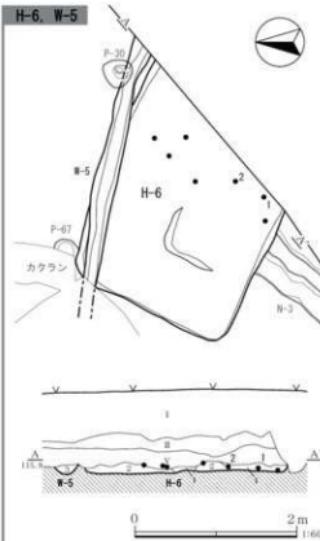
H-4 カマド 堆積土層 (C-C')

- 灰黃褐色土。燒土多量、 Hg-Fa 軟石少量、黑色土ブロック微量。
 - 灰黃褐色土。灰多量、燒土ブロック少量。
 - 黑色土。
 - 褐色灰色土。燒土、從化物、黑色土ブロック、 Hg-Fa 軟石、 Hg-Fa 灰少量。

H-5, D-8, N-1 堆積土層 (D-0')

- 1:暗褐色土。黑色土ブロック・Hr-FA軽石多量、
Hr-FA灰少量。燒土・炭化物微量。
2:暗褐色土。Hr-FA灰多量、黑色土鉢・Hr-FA
軽石少量。燒土・炭化物微量。

+7 ~ 9·11·12·14·21. D-25(1)



H-6, W-5 堆積土用

- 1:灰黃褐色土。Br-Fa灰多量、燒土、炭化物微量。
 2:にぶい黃褐色土。Br-Fa 灰ブロック多量。
 植土少量、炭化物微量。
 3:灰黃褐色土。Br-Fa灰多量、燒土、炭化物微量。

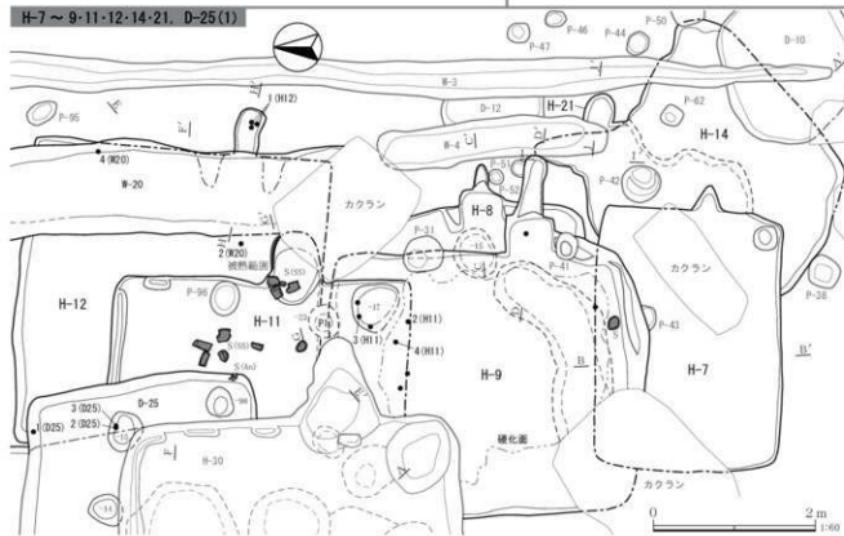
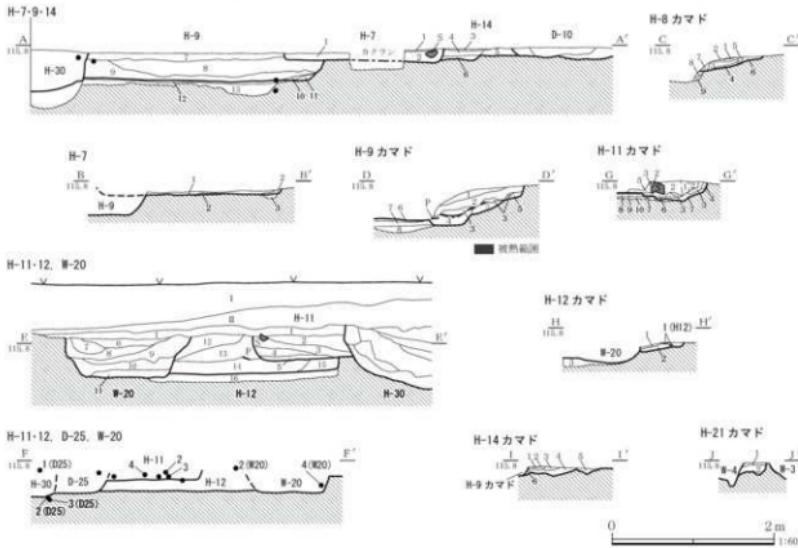


Fig. 8 遺構実測図 (H-6~9・11・12・14・21, D-25, W-5)

H-7 ~ 9・11・12・14・21, D-25 (2)



H-7・9・14 堆積土層 (A'-A')

- 1: 深灰色土。地土ブロック・Hr-Fa 軽石多量。黒色土・粘土・Hr-Fa 少量。炭化物微量。
- 2: 深灰黄色土。Hr-Fa 粘石・Hr-Fa 灰鐵質。
- 3: 深褐色土。地土ブロック・Hr-Fa 軽石多量。黒色土・粘土・Hr-Fa 少量。炭化物微量。
- 4: 黄褐色土。Hr-Fa 粘石・Hr-Fa 軽石・Hr-Fa 灰鐵質。
- 5: 灰黃褐色土。Hr-Fa 粘石・Hr-Fa 少量。
- 6: 深褐色土。黑色土・粘土・Hr-Fa 灰鐵質。
- 7: 深灰褐色土。黑色土・粘石・Hr-Fa 灰鐵質。地土ブロック・Hr-Fa 軽石・Hr-Fa 灰鐵質。
- 8: 深褐色土。黑色土・粘石・Hr-Fa 軽石・Hr-Fa 灰鐵質。地土ブロック微量。
- 9: 黄褐色土。Hr-Fa 軽石多量。黑色土ブロック・Hr-Fa 少量。
- 10: 深灰褐色土。
- 11: 深灰褐色土。黑色土ブロック・Hr-Fa 灰鐵質。
- 12: 深灰褐色土。Hr-Fa 粘石・Hr-Fa 少量。黑色土・粘土・Hr-Fa 灰鐵質。
- 13: 黑褐色土。黑色土ブロック多量。

H-7 堆積土層 (B-B')

- 1: 深灰褐色土。Hr-Fa 粘石・Hr-Fa 灰鐵質。
- 2: 明赤褐色土。地土ブロック多量。
- 3: 深青灰褐色土。地土ブロック多量。Hr-Fa 粘・暗褐色土・地土ブロック少量。炭化物微量。
- 4: 黑色土。黑色土ブロック主体。地土・Hr-Fa 灰鐵質。
- 5: 深褐色土。Hr-Fa 粘石・Hr-Fa 粘石・Hr-Fa 灰鐵質。
- 6: 黑褐色土。黑色土・Hr-Fa 灰鐵質。
- 7: 深灰褐色土。黑色土・Hr-Fa 灰鐵質。
- 8: 深灰褐色土。Hr-Fa 粘石・Hr-Fa 灰鐵質。
- 9: 黑褐色土。黑色土・Hr-Fa 灰鐵質。
- 10: 黑褐色土。Hr-Fa 粘石・Hr-Fa 灰鐵質。
- 11: 黑褐色土。黑色土・Hr-Fa 灰鐵質。
- 12: 深灰褐色土。Hr-Fa 粘石・Hr-Fa 灰鐵質。
- 13: 黑褐色土。Hr-Fa 粘石・Hr-Fa 灰鐵質。
- 14: 深灰褐色土。Hr-Fa 灰鐵質。
- 15: 黑褐色土。黑色土ブロック多量。黑色土ブロック少量。
- 16: 深灰褐色土。Hr-Fa 灰鐵質。

H-8 カマド 堆積土層 (C-C')

- 1: 深褐色土。Hr-Fa 粘石・Hr-Fa 灰鐵質。
- 2: 明赤褐色土。地土ブロック主体。
- 3: 深青灰褐色土。地土ブロック多量。Hr-Fa 粘・暗褐色土・地土ブロック少量。炭化物微量。
- 4: 黑色土。黑色土ブロック主体。地土・Hr-Fa 灰鐵質。
- 5: 深褐色土。Hr-Fa 粘石・Hr-Fa 粘石・Hr-Fa 灰鐵質。
- 6: 黑褐色土。黑色土・Hr-Fa 灰鐵質。
- 7: 深灰褐色土。黑色土・Hr-Fa 灰鐵質。
- 8: 深灰褐色土。Hr-Fa 粘石・Hr-Fa 灰鐵質。
- 9: 黑褐色土。黑色土・Hr-Fa 灰鐵質。
- 10: 黑褐色土。Hr-Fa 粘石・Hr-Fa 灰鐵質。
- 11: 黑褐色土。黑色土ブロック・Hr-Fa 灰鐵質。
- 12: 深灰褐色土。Hr-Fa 粘石多量。Hr-Fa 灰鐵質。炭化物微量。
- 13: 深褐色土。Hr-Fa 灰鐵質。
- 14: 黑褐色土。Hr-Fa 粘石・Hr-Fa 灰鐵質。
- 15: 黑褐色土。黑色土ブロック・Hr-Fa 灰鐵質。
- 16: 深灰褐色土。Hr-Fa 粘石・Hr-Fa 灰鐵質。

H-9 カマド 堆積土層 (D-D')

- 1: 深灰褐色土。黑色土ブロック少量。地土・Hr-Fa 灰鐵質。
- 2: 深灰黄色土。黑色土ブロック少量。炭化物・Hr-Fa 灰鐵質。
- 3: 灰褐色土。地土・Hr-Fa 灰鐵質。
- 4: 暗褐色土。Hr-Fa 灰鐵質。
- 5: 深褐色土。黑色土ブロック少量。Hr-Fa 灰鐵質。
- 6: 黄褐色土。地土・Hr-Fa 灰鐵質。
- 7: 黄褐色土。地土ブロック・炭化物多量。黑色土ブロック微量。
- 8: 黄褐色土。Hr-Fa 灰鐵質。

H-11・12・W-20 堆積土層 (E-E')

- 1: 深灰褐色土。Hr-Fa 粘石・Hr-Fa 灰鐵質。炭化物微量。
- 2: 深褐色土。Hr-Fa 粘石・Hr-Fa 灰鐵質。炭化物・Hr-Fa 灰鐵質。
- 3: 深褐色土。炭化物・Hr-Fa 灰鐵質。
- 4: 黑褐色土。地土・Hr-Fa 灰鐵質。
- 5: 黑褐色土。地土・Hr-Fa 灰鐵質。
- 6: 黑褐色土。地土・Hr-Fa 灰鐵質。
- 7: 深褐色土。黑色土ブロック・Hr-Fa 灰鐵質。
- 8: 深褐色土。Hr-Fa 粘石多量。地土・炭化物・黑色土・Hr-Fa 灰鐵質。
- 9: 黑褐色土。Hr-Fa 灰鐵質。
- 10: 黑褐色土。地土・Hr-Fa 灰鐵質。
- 11: 黑褐色土。地土・Hr-Fa 灰鐵質。
- 12: 黑褐色土。Hr-Fa 灰鐵質。
- 13: 黑褐色土。Hr-Fa 灰鐵質。
- 14: 黑褐色土。Hr-Fa 灰鐵質。
- 15: 黑褐色土。Hr-Fa 灰鐵質。
- 16: 黑褐色土。Hr-Fa 灰鐵質。

H-12 カマド 堆積土層 (F-F')

- 1: 深灰褐色土。地土多量。灰白色灰少量。Hr-Fa 灰鐵質。
- 2: 深灰褐色土。地土主体。
- 3: 深灰褐色土。地土・Hr-Fa 灰鐵質。
- 4: 深灰褐色土。地土・Hr-Fa 灰鐵質。
- 5: 深灰褐色土。地土・Hr-Fa 灰鐵質。
- 6: 深灰褐色土。炭化物・青灰色灰多量。炭化物は下に偏在。
- 7: 深灰褐色土。青灰色灰・灰白色灰主体。地土多量。炭化物微量。
- 8: 黑褐色土。地土・Hr-Fa 灰鐵質・Hr-Fa 灰鐵質。
- 9: 黑褐色土。Hr-Fa 灰鐵質。
- 10: 黑褐色土。Hr-Fa 灰鐵質。

H-14 カマド 堆積土層 (G-G')

- 1: 深褐色土。地土多量。Hr-Fa 灰鐵質・Hr-Fa 灰少量。
- 2: 明赤褐色土。地土主体。
- 3: 深褐色土。地土ブロック・Hr-Fa 灰鐵質。
- 4: 深褐色土。地土・Hr-Fa 灰鐵質。
- 5: 黑褐色土。黑色土・Hr-Fa 灰鐵質。
- 6: 深褐色土。Hr-Fa 灰鐵質。
- 7: 深褐色土。Hr-Fa 灰鐵質。
- 8: 深褐色土。Hr-Fa 灰鐵質。

H-14・20 カマド 堆積土層 (I-I')

- 1: 深褐色土。地土多量。Hr-Fa 灰鐵質・Hr-Fa 灰少量。
- 2: 明赤褐色土。地土主体。
- 3: 深褐色土。地土ブロック・Hr-Fa 灰鐵質。
- 4: 深褐色土。地土・Hr-Fa 灰鐵質。
- 5: 黑褐色土。黑色土・Hr-Fa 灰鐵質。
- 6: 深褐色土。Hr-Fa 灰鐵質。
- 7: 深褐色土。Hr-Fa 灰鐵質。
- 8: 深褐色土。Hr-Fa 灰鐵質。
- 9: 深褐色土。Hr-Fa 灰鐵質。
- 10: 黑褐色土。Hr-Fa 灰鐵質・Hr-Fa 灰少量。
- 11: 黑褐色土。黑色土ブロック・Hr-Fa 灰鐵質。
- 12: 黑褐色土。Hr-Fa 灰鐵質。
- 13: 黑褐色土。Hr-Fa 灰鐵質。
- 14: 黑褐色土。Hr-Fa 灰鐵質。
- 15: 黑褐色土。黑色土ブロック・Hr-Fa 灰鐵質。
- 16: 黑褐色土。Hr-Fa 灰鐵質。

H-21 カマド 堆積土層 (J-J')

- 1: 深灰褐色土。地土大量。Hr-Fa 灰鐵質・Hr-Fa 灰少量。炭化物・黑色土粘少量。
- 2: 深灰褐色土。黑色土・Hr-Fa 灰鐵質。
- 3: 深褐色土。Hr-Fa 灰鐵質。
- 4: 深褐色土。Hr-Fa 灰鐵質。
- 5: 黑褐色土。Hr-Fa 灰鐵質。
- 6: 深褐色土。Hr-Fa 灰鐵質。

Fig. 9 遺構実測図 (H-7 ~ 9・11・12・14・21, D-25)

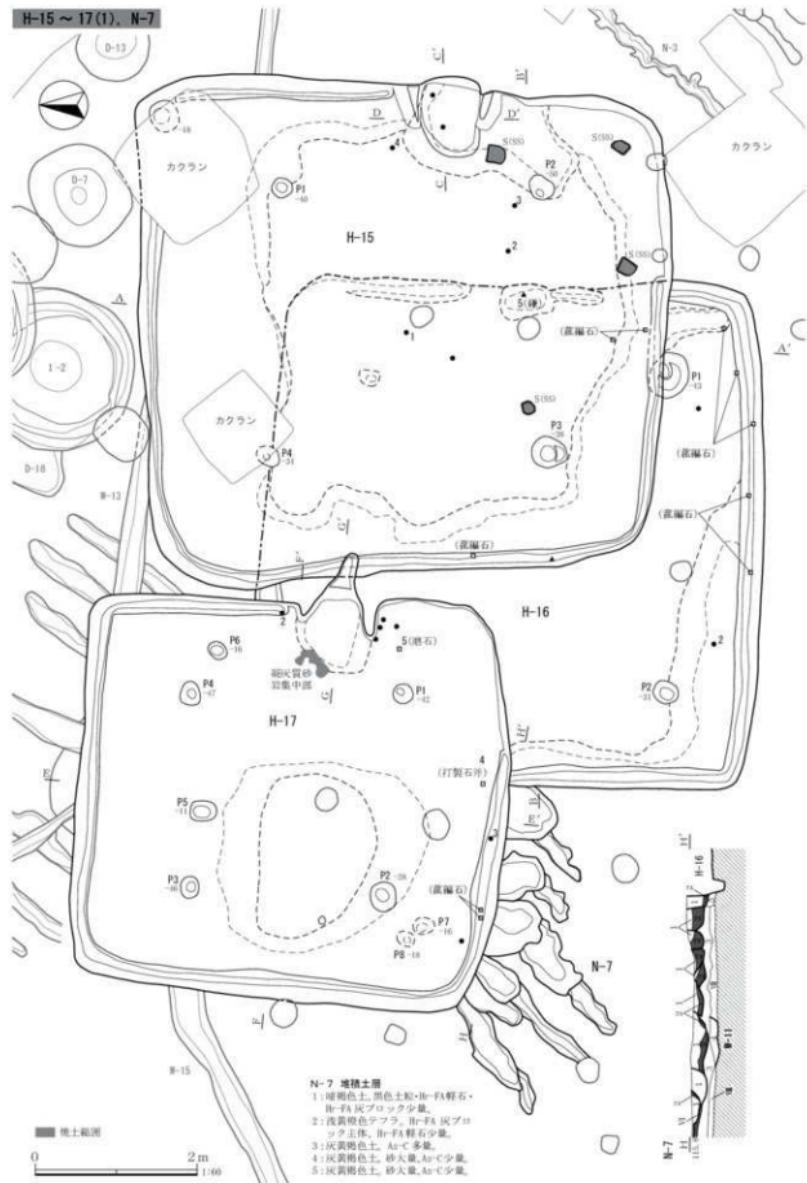


Fig.10 遺構実測図 (H-15 ~ 17, N-7)

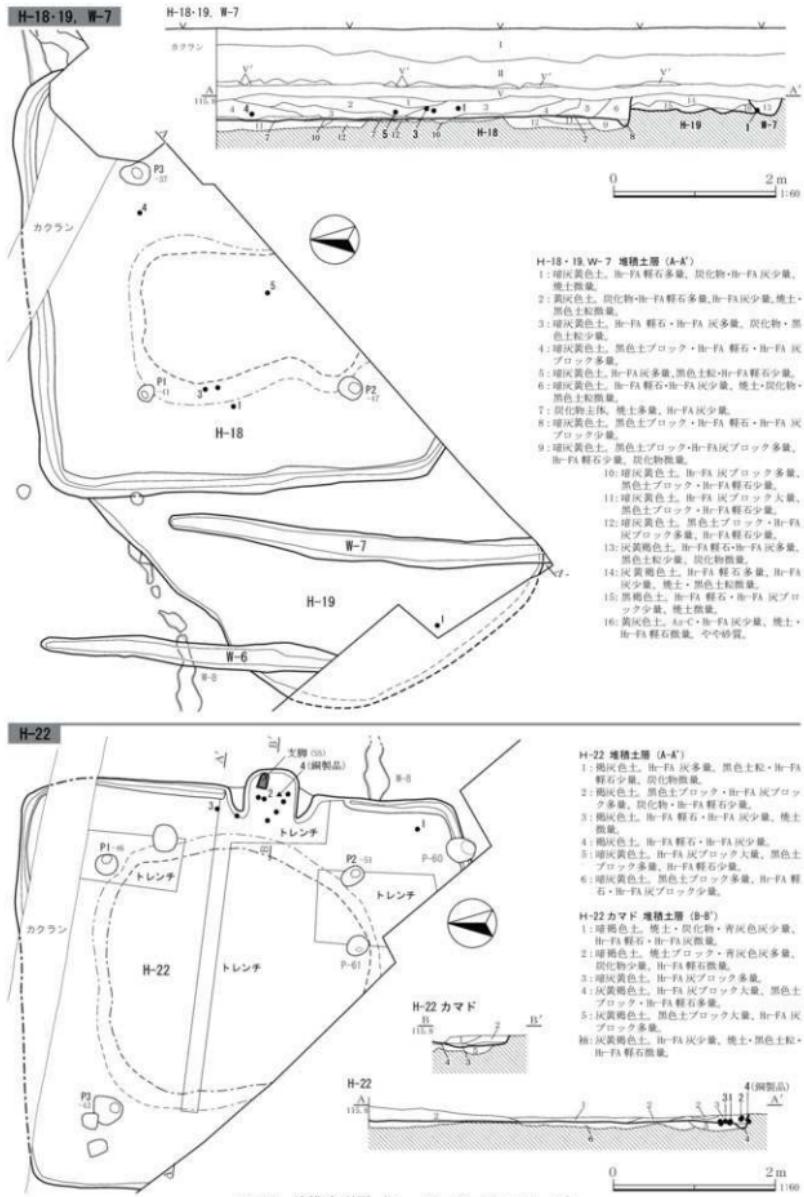
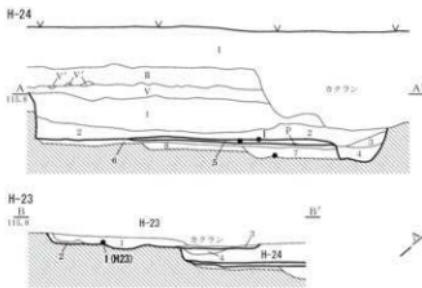


Fig.12 遺構実測図 (H-18・19・22, W-7)

H-23-24



H-23 堆積土層 (B-B')

- 1:灰褐色土。 $Az-C$ - $Bt-Bfa$ 轻石多量。块土-风化物
黑色土プロック少量。
 - 2:灰褐色土。 $Az-C$ 多量。
 - 3:灰褐色土。 $Az-C$ 少量。黑色土プロック微量。
 - 4:灰褐色土。风化物-黑色土プロック少量。 $Az+C$ 少量。
 - 5:灰褐色土。块土-黑色土プロック。 $Az-C$ 少量。

H-23 力支下 堆積土層 (C-C')

- 堆灰黄色土。Hr-FA 轻石。Hr-FA 灰多量、地土 灰化物微量。
 - 堆灰黄色土。地土ブロック。灰白色灰多量、 Hr-FA 轻石。Hr-FA 反少量。灰白色灰是层状。
 - 堆灰灰色土。炭化物多量。地土少量。
 - 堆褐色土。Hr-FA 轻石。Hr-FA 灰多量、黑色土灰 口々タケ多量。

H-24 堆積土層 (A-A')

- 1: 單色土。-Hf-II 輕石少、-Hf-II 土多量。黑色土和少量化學物質。
 - 2: 單色土。-Hf-II 輕石少、-Hf-II 土多量。黑土土塊少、土壤化學物質少。
 - 3: 單色土。-Hf-II 輕石多量、-Hf-II 土少量。褐色土，鐵、錳、鈣少。
 - 4: 單色土。褐色土多量。鐵土少量。從化物、-Hf-II 輕石少、-Hf-II 土無量。
 - 5: 从化土。-Hf-II 輕石多量，氧化鐵物質，鐵分少的鐵土。
 - 6: 从化土。-Hf-II 土多量和多量，黑色土塊少量。鐵少的鐵土。
 - 7: 从化土。黑土土塊少、-Hf-II 輕石少量、鐵化物質少。
 - 8: 單色土。-Hf-II 土少量。鐵土。從化物。黑色土塊少、鐵少的鐵土。



H-25

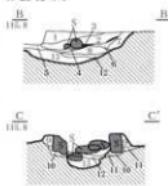


H-25 地質土層 (A-A')

- 1) 黄褐色土。含水少，黑土质土或黑土质粘土，H-Fa胶粒-H-Fa胶微团。
 - 2) 黄褐色土。含C，H-Fa 胶粒-H-Fa 胶少量，氧化物-H-Fc 氧化铁。
 - 3) 黄褐色土。含C + H-Fa 轻石少量，微化物，黑土质土或黑土质粘土。
 - 4) 黄褐色土。含C + H-Fa 轻石少量，H-Fa 胶微团。
 - 5) 黑褐色土。含C + H-Fa 轻石微量，H-Fc 氧化铁。
 - 6) 黑褐色土。含C + H-Fa 轻石微量，H-Fc 氧化铁。
 - 7) 棕褐色土。微化物，H-Fa 胶微团。
 - 8) 棕褐色土。黑土质土或黑土质粘土，H-Fc 氧化铁。
 - 9) 棕褐色土。含C + H-Fa 胶粒-H-Fc 氧化铁。
 - 10) 黑褐色土。H-Fa 胶粒-H-Fc 氧化铁。
 - 11) 黑褐色土。H-Fc 氧化铁。
 - 12) 黑褐色土。黑土质土或黑土质粘土。

A detailed geological cross-section diagram. The vertical axis on the left is labeled with numbers 1 through 25 from bottom to top. The horizontal axis at the bottom is labeled '西' (West) and '東' (East). The diagram shows several geological units represented by different patterns: a thick dashed line at the top, followed by a hatched area, a light gray area, a dark gray area, a white area with black dots, and a thin dashed line near the bottom. Various layers are labeled with letters A through Z. Labels include '砂岩' (Sandstone), '泥岩' (Shale), '頁岩' (Limestone), '礫岩' (Conglomerate), '砂質泥岩' (Sandy shale), '泥質砂岩' (Shaly sandstone), '泥質頁岩' (Shaly limestone), '頁岩質泥岩' (Limestone-shaly shale), and '泥岩質頁岩' (Shaly limestone). Specific locations like '河口' (River mouth) and '海岸' (Coast) are also indicated.

H-25 カマド



H-25カマド 埋積土層(B-B' C-C')

- 1:灰褐色土。壤土-Hr-Fa 粘石, Hr-Fa 灰褐色。
 - 2:褐色土。壤土。黑化物少量。
 - 3:明暗褐色土。壤土主体。
 - 4:暗化物土体。
 - 5:青灰色土。
 - 6:灰黄褐色土。壤土。青灰色炭多量。
 - 7:灰黄褐色土。壤土。青灰色炭多量。
 - 8:灰黄褐色土。壤土。青灰色炭少量。
 - 9:褐色土。Ae-C 少量。
 - 10:褐色土。Ae-C 无量。
 - 11:黑褐色土。砂砾粒少量。
 - 12:灰黄褐色土。壤土。青灰炭少量, 黑化物微量。
 - 13:灰黄褐色土。有灰黑色炭多量。壤土, 黑化物少量。



Fig.13 遺構実測図 (H - 23 ~ 25)

H-26 ~ 31 (2)

H-26・27・28 堆積土層 (A-E')

- 1: 塗灰褐色土。炭化物・Hr-Fa 軽石・Hr-Fa 灰少量。
- 2: 黄灰色土。炭化物・Ac-C・Hr-Fa 灰ブロック少量。
- 3: 塗灰黃褐色土。Ac-C・Hr-Fa 軽石少量。炭化物・炭化物微量。
- 4: 塗灰褐色土。Hr-Fa 軽石多量。炭化物・Ac-C・Hr-Fa 灰少量。
- 5: 黄灰色土。炭化物・Ac-C少量。燒土・炭化物微量。
- 6: 黄褐色土。Ac-C少量。黑色土ブロック・Hr-Fa 灰石微量。
- 7: 黄褐色土。黑色土ブロック多量。Hr-Fa 軽石少量。
- 8: 橙褐色土。黑色土ブロック大量。Hr-Fa 軽石・Hr-Fa 灰石・Hr-Fa 軽石ブロック多量。Ac-C少量。
- 9: 塗灰褐色土。黑色土・Hr-Fa 軽石少量。炭化物・Hr-Fa 灰少量。
- 10: 塗灰褐色土。Hr-Fa 軽石・Hr-Fa 灰少量。炭化物・Hr-Fa 灰少量。
- 11: 塗灰褐色土。Hr-Fa 灰少量。黑色土・Hr-Fa 灰石微量。

H-27 カマド 堆積土層 (E-E')

- 1: 塗灰褐色土。Hr-Fa 軽石多量。燒土・黑色土ブロック・Hr-Fa 灰少量。炭化物微量。
- 2: 塗褐色土。燒土・燒土・炭化物少量。Hr-Fa 軽石・Hr-Fa 灰少量。
- 3: 塗褐色土。燒土・燒土・炭化物少量。Hr-Fa 軽石・Hr-Fa 灰少量。
- 4: 烧土ブロック・青灰色灰は層状。炭化物は千層に偏在。
- 5: 塗灰褐色土。炭化物少量。
- 6: 黄褐色土。Hr-Fa 軽石多量。燒土・Hr-Fa 灰石微量。
- 7: 黑褐色土。燒土・燒土・炭化物少量。
- 8: 黑褐色土。燒土・燒土・炭化物少量。Hr-Fa 軽石・Hr-Fa 灰少量。
- 9: 塗灰褐色土。燒土多量。燒化物・Hr-Fa 軽石少量。
- 10: Hr-Fa 軽石・Hr-Fa 灰少量。燒土・Hr-Fa 灰多量。燒化物・黑色土ブロック少量。
- 11: 塗灰褐色土。燒土・燒化物・黑色土ブロック・Hr-Fa 軽石・Hr-Fa 灰少量。

H-28 カマド 堆積土層 (D-D')

- 1: 塗灰褐色土。Hr-Fa 灰石・Hr-Fa 灰多量。燒土・黑色土ブロック少量。燒化物微量。
- 2: 塗灰褐色土。燒土・Hr-Fa 軽石・Hr-Fa 灰多量。燒土少量。
- 3: 塗灰褐色土。燒土・Hr-Fa 軽石・Hr-Fa 灰少量。燒化物・黑色土ブロック微量。
- 4: 塗灰褐色土。青灰色灰多量。燒土・燒化物微量。
- 5: 塗灰褐色土。Hr-Fa 軽石少量。

H-29 カマド 堆積土層 (E-E')

- 1: 塗灰褐色土。Hr-Fa 軽石多量。燒土・黑色土ブロック・Hr-Fa 灰少量。炭化物微量。
- 2: 塗褐色土。燒土・燒土・炭化物少量。Hr-Fa 軽石・Hr-Fa 灰少量。
- 3: 塗褐色土。燒土・燒土・炭化物少量。Hr-Fa 灰少量。
- 4: 烧土ブロック・Hr-Fa 軽石多量。燒化物・Hr-Fa 灰少量。燒土微量。
- 5: 烧土ブロック・Hr-Fa 軽石多量。燒化物・Hr-Fa 灰少量。燒土微量。
- 6: 黄褐色土。Hr-Fa 軽石微量。
- 7: 黑褐色土。燒土微量。
- 8: 塗灰褐色土。燒土・燒土・炭化物・Hr-Fa 軽石・Hr-Fa 灰少量。
- 9: 塗灰褐色土。燒土多量。燒化物・Hr-Fa 軽石少量。
- 10: Hr-Fa 軽石・Hr-Fa 灰少量。燒土・Hr-Fa 灰多量。燒化物・燒化物少量。
- 11: 塗灰褐色土。Hr-Fa 軽石少量。燒化物・青灰色灰微量。
- 12: Hr-Fa 軽石少量。

多量。燒化物・黑色土ブロック微量。

- 13: 塗灰褐色土。燒化物少量。燒土・黑色土ブロック・Hr-Fa 軽石微量。
- 14: 黄褐色土。Hr-Fa 軽石多量。Hr-Fa 灰少量。黑色土ブロック微量。
- 15: 塗灰褐色土。燒土大塊。燒化物多量。燒灰質砂岩少量。燒化物・Hr-Fa 軽石微量。
- 16: 塗灰褐色土。燒土・Hr-Fa 軽石少量。燒土・燒化物微量。
- 17: 塗灰褐色土。燒土・Hr-Fa 軽石多量。燒化物少量。燒土・黑色土ブロック微量。
- 18: Hr-Fa 軽石・Hr-Fa 灰少量。Hr-Fa 灰少量。
- 19: 塗灰褐色土。燒土・黑色土ブロック・Hr-Fa 軽石・Hr-Fa 灰少量。
- 20: Hr-Fa 軽石・Hr-Fa 灰少量。
- 21: Hr-Fa 軽石・Hr-Fa 灰少量。

H-30 カマド 堆積土層 (D-D')

- 1: 塗灰褐色土。Hr-Fa 軽石多量。燒土・燒化物微量。
- 2: 塗灰褐色土。燒土・Hr-Fa 軽石・Hr-Fa 灰多量。燒化物少量。燒土微量。
- 3: 塗灰褐色土。燒土・Hr-Fa 軽石・Hr-Fa 灰多量。燒土少量。燒化物微量。
- 4: 黑褐色土。燒土・燒土・燒化物少量。燒土・Hr-Fa 軽石・Hr-Fa 灰微量。
- 5: 黑褐色土。燒土・燒土・燒化物少量。燒土・Hr-Fa 軽石・Hr-Fa 灰微量。
- 6: 黄褐色土。Hr-Fa 軽石微量。
- 7: 黑褐色土。燒土微量。
- 8: 塗灰褐色土。燒土・燒土・燒化物・Hr-Fa 軽石・Hr-Fa 灰少量。
- 9: 塗灰褐色土。燒土多量。燒化物・Hr-Fa 軽石少量。
- 10: Hr-Fa 軽石・Hr-Fa 灰少量。燒土・Hr-Fa 灰多量。燒化物・燒化物少量。
- 11: 塗灰褐色土。Hr-Fa 軽石少量。燒化物・黑色土ブロック・Hr-Fa 軽石少量。
- 12: 黄褐色土。燒土・燒土・燒化物少量。
- 13: 黑褐色土。燒土・Hr-Fa 軽石・Hr-Fa 灰少量。燒化物微量。
- 14: 黑褐色土。燒土・Hr-Fa 軽石・Hr-Fa 灰少量。燒土・燒化物微量。
- 15: 黑褐色土。燒土・燒化物微量。

H-32-33

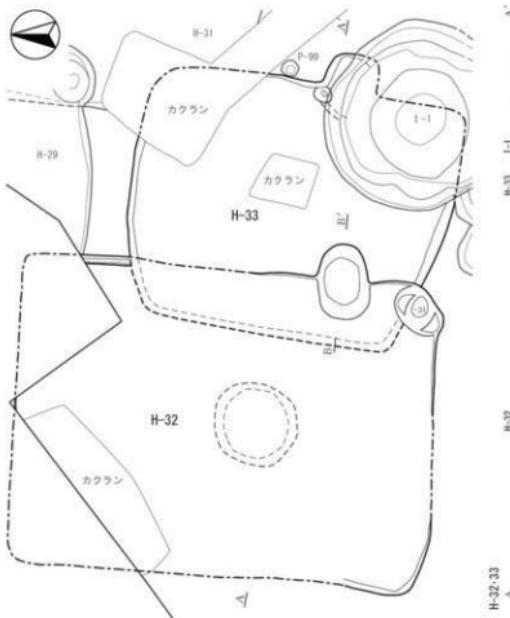


Fig.15 遺構実測図 (H-32・33)

H-32-33 堆積土層 (A-A')

- 1: 塗灰褐色土。黑色土ブロック少量。燒土・燒化物・Hr-Fa 軽石・Hr-Fa 灰微量。
- 2: 塗褐色土。燒土多量。燒化物・黑色土・Hr-Fa 軽石・Hr-Fa 灰少量。
- 3: 黑褐色土。燒土多量。黑色土・Hr-Fa 軽石・Hr-Fa 灰少量。燒化物微量。
- 4: 塗灰褐色土。燒土・燒土・燒化物・青灰色灰は層状。
- 5: 黃褐色土。黑色土・Hr-Fa 軽石・Hr-Fa 灰少量。
- 6: 塗褐色土。青灰色灰・燒土ブロック多量。Hr-Fa 軽石・Hr-Fa 灰少量。燒土・燒化物少量。
- 7: 塗灰褐色土。燒土・黑色土ブロック・Hr-Fa 軽石少量。Hr-Fa 灰少量。
- 8: 黑褐色土。燒土・燒土・燒化物少量。Hr-Fa 軽石微量。
- 9: 青灰色灰土。
- 10: Hr-Fa 軽石・Hr-Fa 灰少量。燒土・燒化物微量。
- 11: 塗灰褐色土。燒土・燒土・燒化物・Hr-Fa 軽石少量。
- 12: 黄褐色土。
- 13: 塗褐色土。燒土・燒土・燒化物多量。Hr-Fa 軽石・Hr-Fa 灰少量。燒化物微量。
- 14: 塗灰褐色土。燒土・燒化物・黑色土ブロック・Hr-Fa 軽石・Hr-Fa 灰少量。
- 15: 黑褐色土。

H-32 カマド (D-D')

- 1: 黑褐色土。燒土・黑色土ブロック・Hr-Fa 軽石・Hr-Fa 灰・Hr-Fa 灰少量。燒化物微量。
- 2: 黑褐色土。燒土・Hr-Fa 軽石・Hr-Fa 灰少量。燒土・燒化物微量。

H-32 カマド (E-E')

- B: 113.5
B': 113.5
2 m
1:00

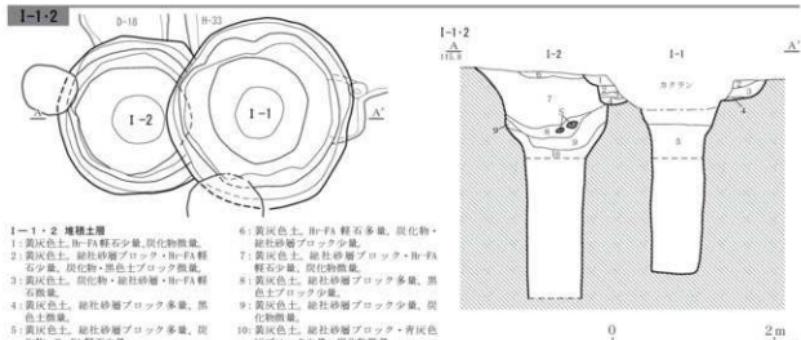
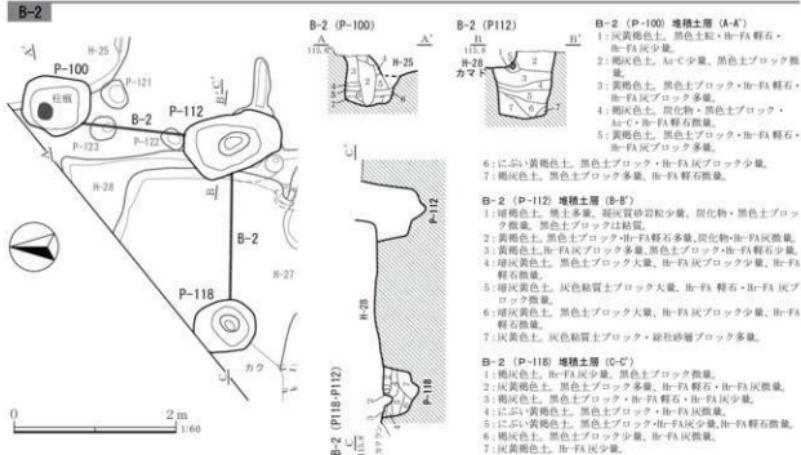
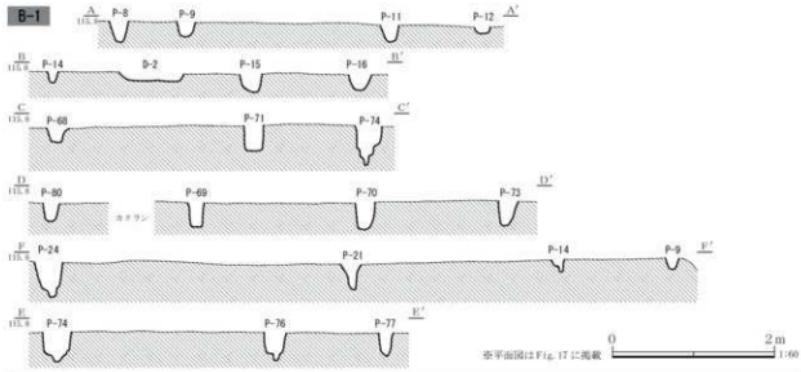


Fig.16 遺構実測図 (B-1・2, I-1・2)

土坑、ピット、溝跡、耕作痕

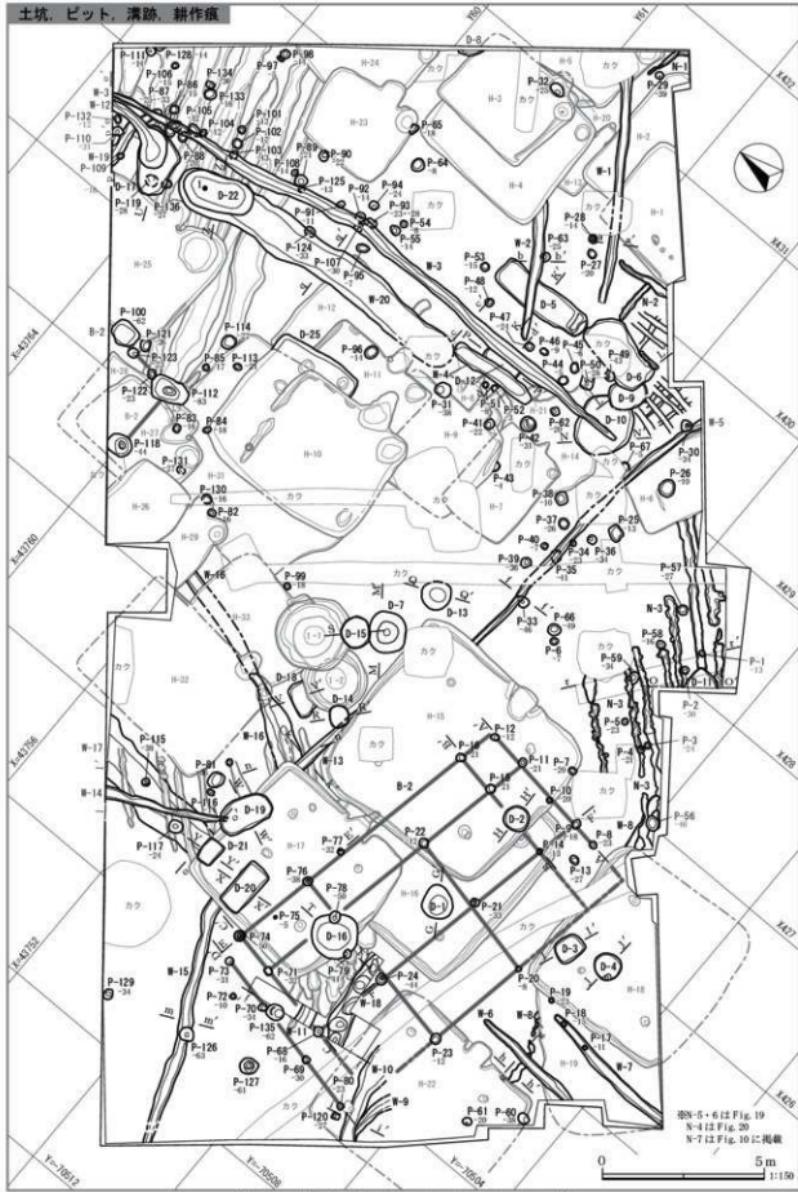
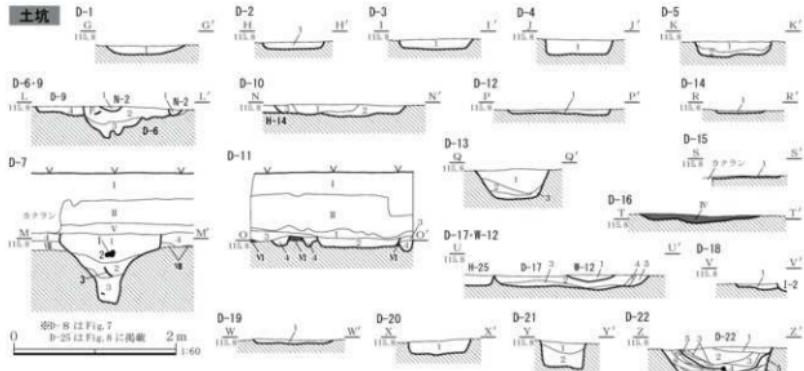


Fig.17 遺構実測図 (D, P, W, N-1~3)



D-1・2 堆積土層 (G-G' H-H')

- 1: 黒褐色土。Ar-B 多量、炭酸鈣色土ブロック多量。
Hr-FA 軽石少量、炭化物・黒色土鉱微量。

D-3・4 堆積土層 (I-I' J-J')

- 1: 黑褐色土。Ar-B 多量、灰黃褐色土ブロック少量。
炭化物・Hr-FA 軽石微量。

D-5・6 堆積土層 (K-K')

- 1: 順次褐色土。Hr-FA 軽石多量、黒色土粒少量、他土。
Hr-FA 灰微量。
- 2: 黑色土。Ar-C 多量、Hr-FA 塵微量。

D-6・9 堆積土層 (L-L')

- 1: 順次褐色土。Hr-FA BC ブロック多量、Hr-FA 軽石少量、耕作跡。
- 2: 順次褐色土。Ar-C-Hr-FA 多量、他土・炭化物微量。
- 3: 黑色土。Hr-FA 軽石多量、他土・黑色土粒・Hr-FA 灰微量。
- 4: 灰黃褐色土。Hr-FA 灰微量、黑色土粒少量、Hr-FA 軽石微量。

D-7 堆積土層 (M-M')

- 1: 灰黃褐色土。Ar-C-Hr-FA 多量、他土・炭化物微量。
- 2: 順次褐色土。Ar-C-Hr-FA 多量、他土・炭化物微量。
- 3: 順次褐色土。Ar-C-Hr-FA 軽石多量、Hr-FA 灰少量。やや砂質。
- 4: 灰黃褐色土。黑色土ブロック多量、Hr-FA 多量。

D-10 堆積土層 (N-N')

- 1: 順次褐色土。土壤ブロック・Hr-FA 軽石多量、炭化物・Hr-FA 灰少量。
- 2: 堆積褐色土。Hr-FA 多量、他土・炭化物微量。

D-11 堆積土層 (O-O')

- 1: 順次褐色土。Hr-FA 軽石多量、炭化物微量。
- 2: 灰黃褐色土。Hr-FA BC ブロック少量、黑色土ブロック多量。

D-12 堆積土層 (P-P')

- 1: 順次褐色土。Hr-FA 多量、黑色土ブロック少量、炭化物微量。
- 2: 灰黃褐色土。Hr-FA BC ブロック少量、黑色土ブロック多量。
- 3: 黑色土。Ar-C 多量、Hr-FA 軽石微量。

D-13 堆積土層 (Q-Q')

- 1: 順次褐色土。Hr-FA BC 大量、Hr-FA BC ブロック多量、黑色土ブロック少量。
- 2: 順次褐色土。Hr-FA BC ブロック多量、黑色土ブロック少量。
- 3: 灰黃褐色土。黑色土ブロック・Hr-FA BC ブロック多量、Hr-FA 軽石少量。

D-14・15 堆積土層 (R-R' S-S')

- 1: 灰色土。Ar-B 大量。

D-16 堆積土層 (T-T')

- 1: Hr-FA 混雜。

D-17-W-12 堆積土層 (U-U')

- 1: 順次褐色土。炭化物・Hr-FA 軽石少量、他土微量。
- 2: 順次褐色土。Hr-FA 少量、他土・炭化物微量。
- 3: 順次褐色土。Hr-FA 少量、他土・炭化物微量。
- 4: 順次褐色土。Hr-FA BC ブロック多量、Hr-FA 軽石少量、黑色土ブロック微量。
- 5: 順次褐色土。Hr-FA 少量。

D-18 堆積土層 (V-V')

- 1: 黑褐色土。Hr-FA 多量。

D-19 堆積土層 (W-W')

- 1: 順次褐色土。Ar-B 大量、Ar-C 多量、Hr-FA 軽石微量。

D-20 堆積土層 (X-X')

- 1: 單純褐色土。Ar-B 少量、Ar-C 無量、砂質。

D-21 堆積土層 (Y-Y')

- 1: 單純褐色土。Ar-B 大量、Ar-C 少量、Hr-FA 軽石微量。
- 2: 單純褐色土。Ar-B 少量、黑色土ブロック・Ar-C 少量、Hr-FA 軽石微量。

D-22 堆積土層 (Z-Z')

- 1: 黑褐色土。黑色土ブロック多量、Ar-C-Hr-FA 軽石少量。
- 2: 灰黃褐色土。Hr-FA 軽石多量、黑色土ブロック・Ar-C 少量。
- 3: 單純褐色土。白色砂・少量、Ar-C 少量。
- 4: 單純褐色土。
- 5: 單純褐色土。Ar-C 少量、炭化物微量。
- 6: 單純褐色土。
- 7: 單純褐色土。炭化物・Ar-C-Hr-FA 軽石微量。
- 8: 灰黃褐色土。白色砂・Ar-C 少量、他土・炭化物微量。
- 9: 黑褐色土。黑色土ブロック・白色砂多量。
- 10: 單純褐色土。白色砂多量、砂質。
- 11: 單純褐色土。白色砂多量、黑色土ブロック少量。

溝跡 (I)

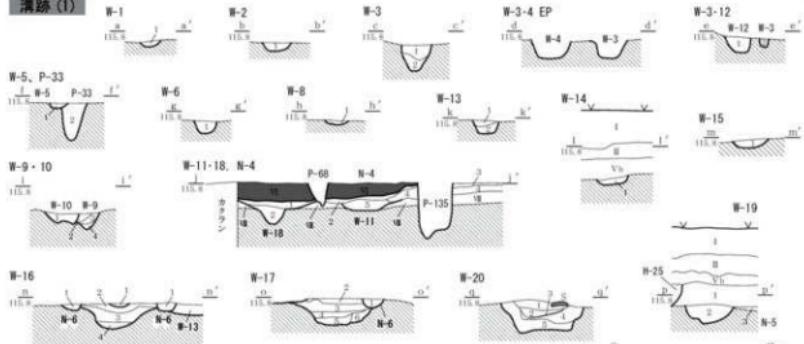
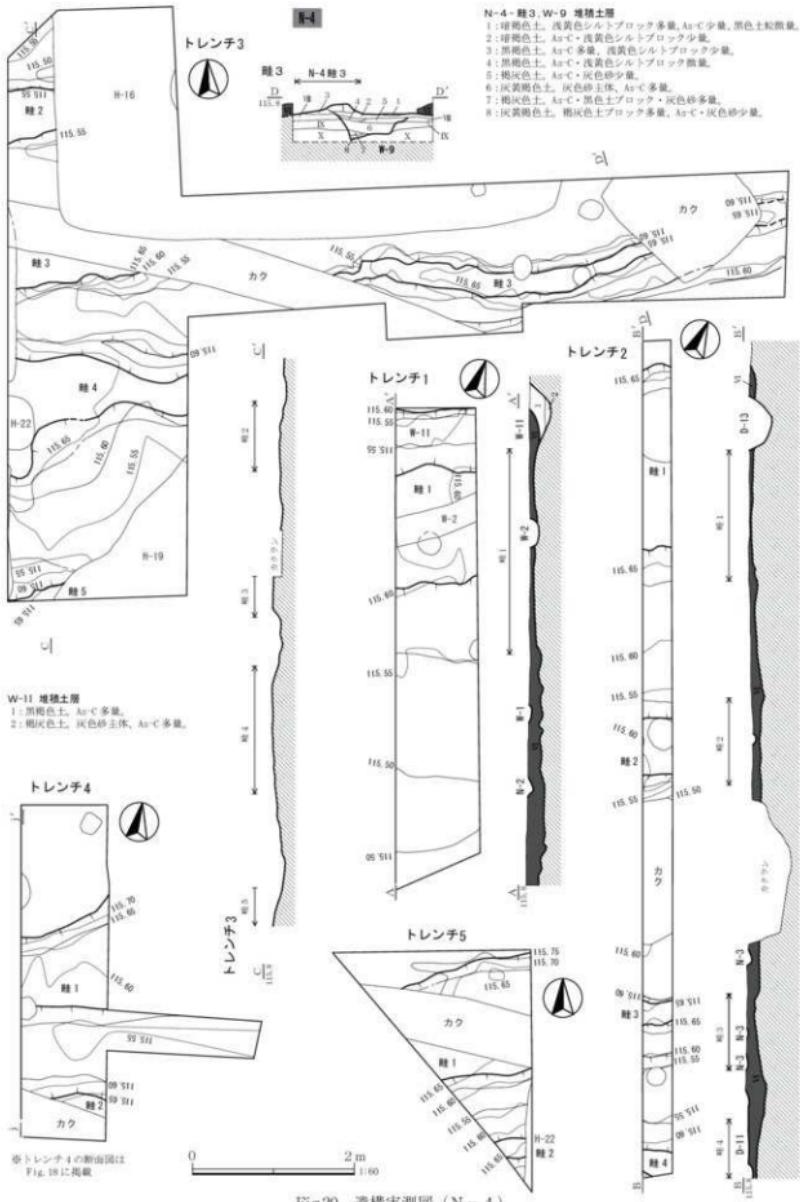


Fig.18 遺構実測図 (D, W)



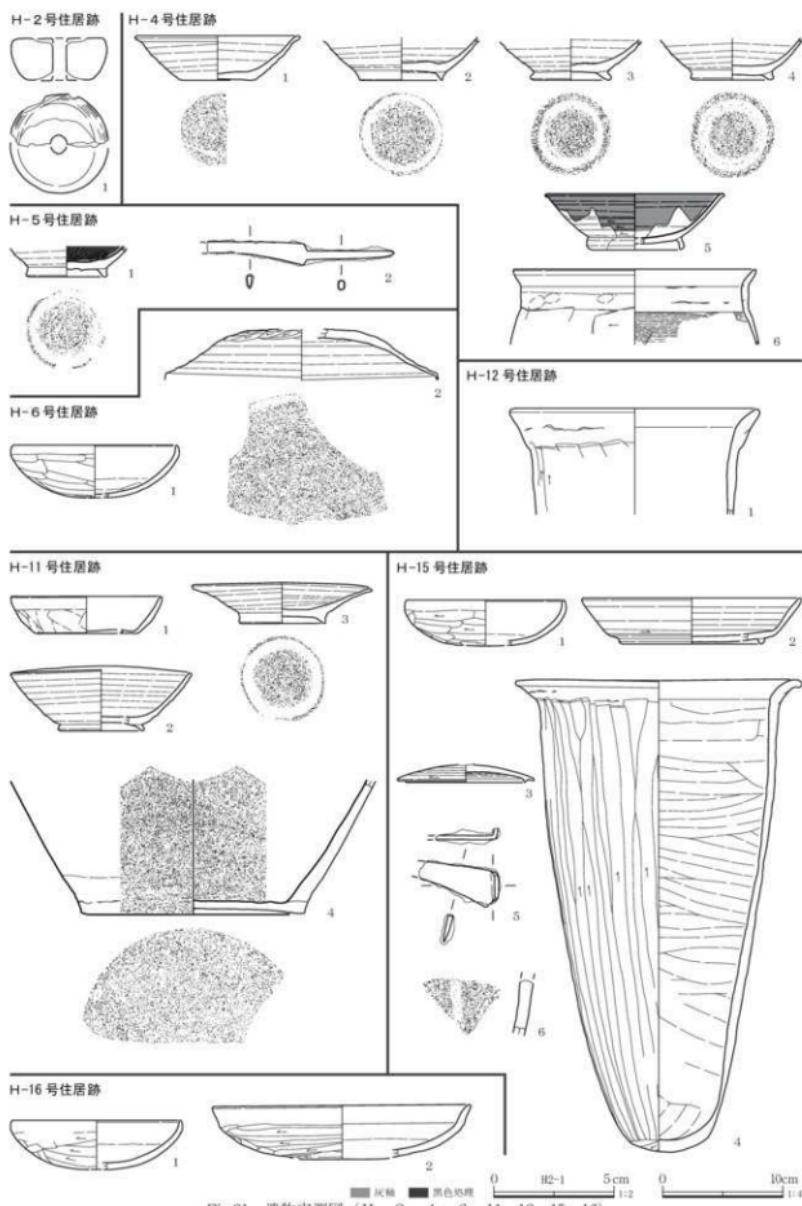


Fig.21 遺物実測図 (H-2・4~6・11・12・15・16)

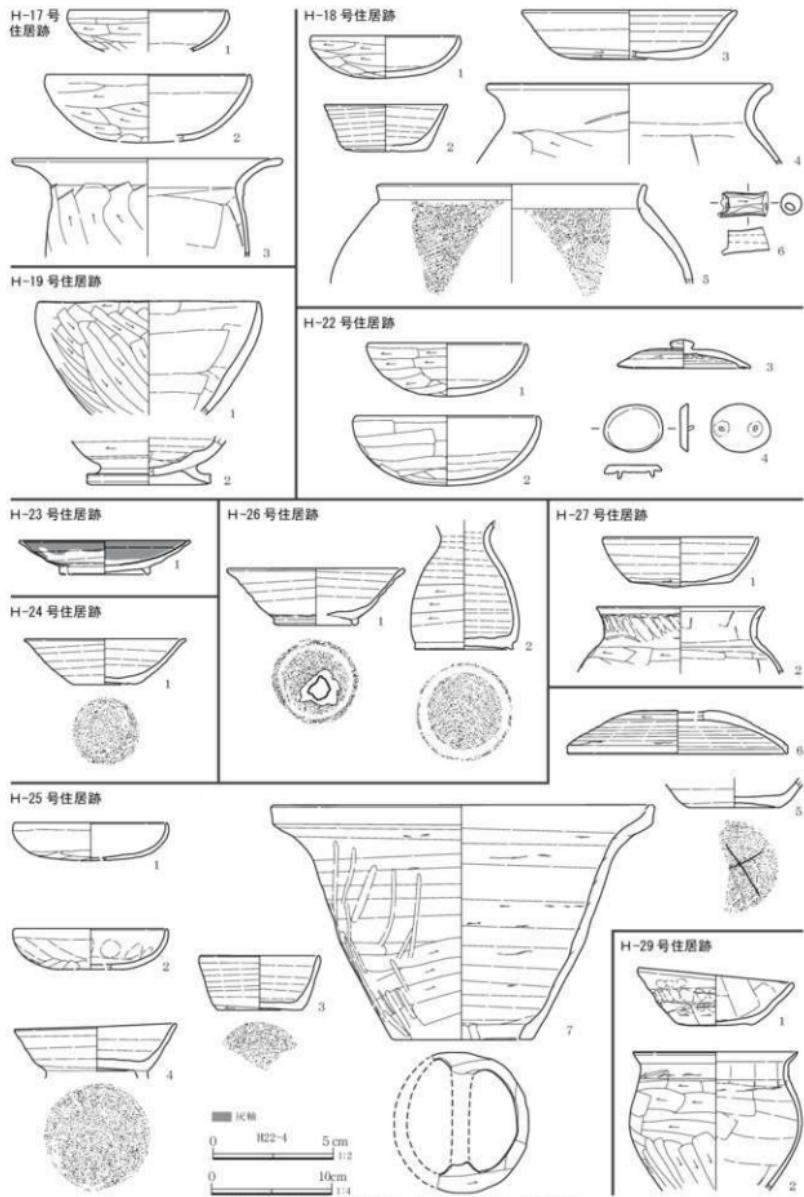
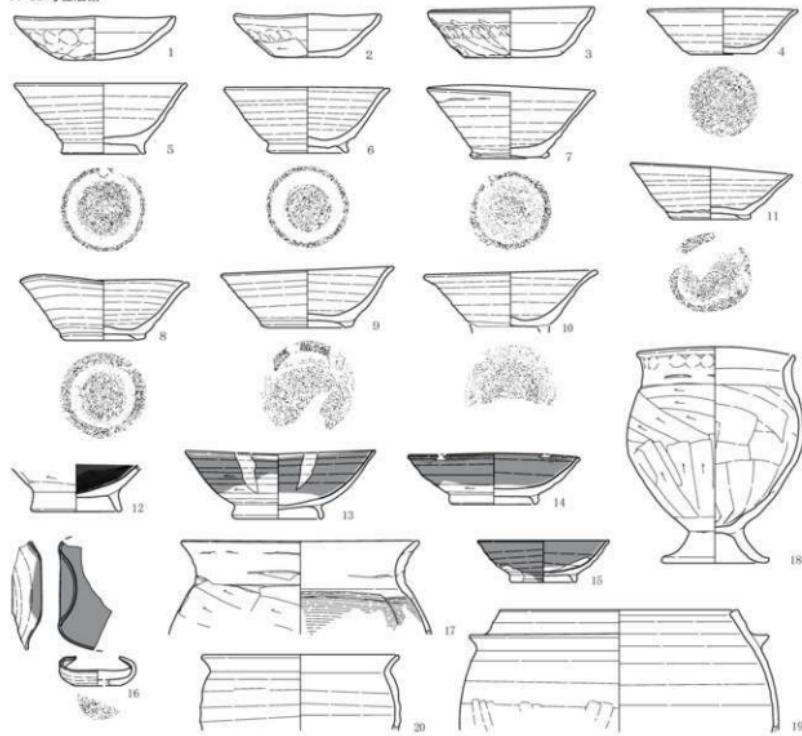


Fig.22 遺物実測図 (H-17~19・22~27・29)

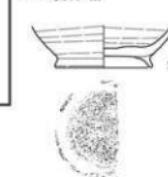
H-30号住居跡



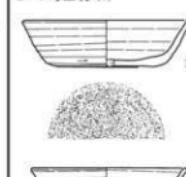
H-32号住居跡



I-1号井戸跡



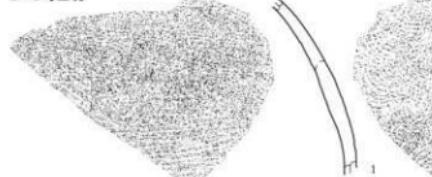
D-7号土坑(I)



H-33号住居跡



D-6号土坑



■ 灰釉
■ 黑色处理
■ 油漆

0 10cm 1:4

Fig.23 遺物実測図 (H-30・32・33, I-1, D-6・7)

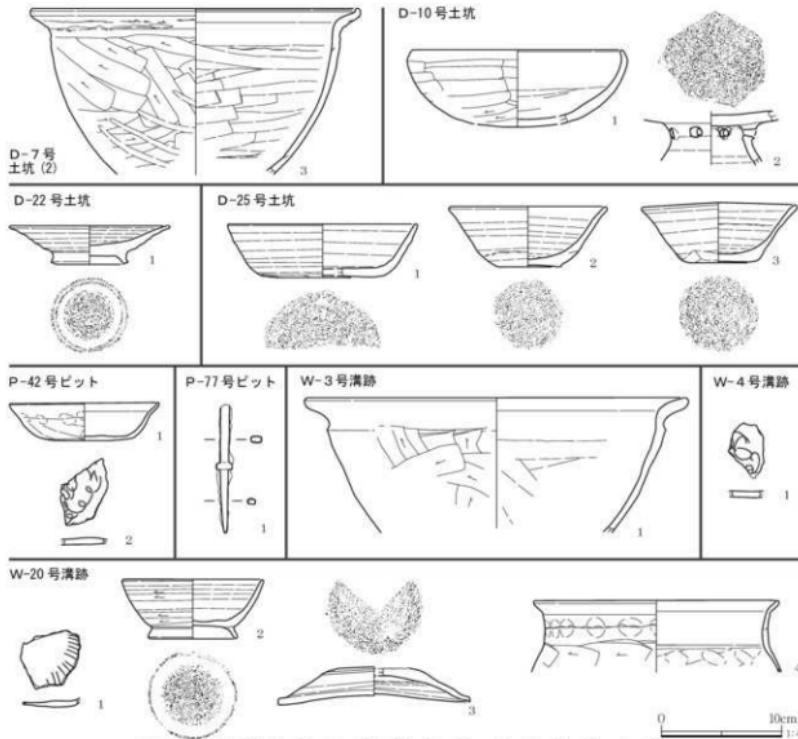


Fig.24 遺物実測図 (D-7・10・22・25, P-42・77, W-3・4・20)

Tab. 6 出土遺物観察表 (1)

計測値 (cm・g)

番号	種別	計測値	①焼成 ②色調(外/内) ③粘土 ④残存	調査	備考
H-2 1	石製品 柄錐形	径: 4.0, 孔径: 0.7, 高さ: 17, 重量: 19.1。石材: 滑石。破損が著しい。			
H-4 1	網戸器 環	口径: 0.26mm 底径: 60 高さ: 36	①酸化端 ②にぶい緑/にぶい緑 ③石英、黒色鉱物 ④口縁部・体部1/3、底部1/2	外面: 繩縫整形、底部右斜板系切。内面: 繩縫整形。	
H-4 2	網戸器 環	底径: 69	①還元端 ②灰白/灰白 ③石英、黑色鉱物 ④体部 底部1/1	外面: 繩縫整形、底部右斜板系切、高台貼付後周縫回転ナデ。内面: 繩縫整形。	
H-4 3	網戸器 環	底径: 66	①酸化端 ②黄土/黄橙 ③石英、角閃石、赤色鉱物 ④体部1/2、底部1/1	外面: 繩縫整形、底部斜板系切、高台貼付後周縫回転ナデ。内面: 繩縫整形。	
H-4 4	網戸器 環	底径: 68	①酸化端 ②にぶい黄橙/にぶい黄橙 ③石英、角 閃石 ④体部1/2、底部1/1	外面: 繩縫整形、底部斜板系切、高台貼付後周縫回転ナデ。内面: 繩縫整形。	
H-4 5	灰釉陶 壺	口径: (14.7) 底径: 80 高さ: 46	①還元端 ②灰白/灰白、難: 黃オリーブ ③石英、 黒色鉱物 ④口縁部・体部1/4、底部1/2	外面: 繩縫整形、底部下半~底部回転ケズリ、高台貼 付後周縫回転ナデ。内面: 繩縫整形。	灰釉毛毛ナリ
H-4 6	土節器 環	口径: (19.9)	①普通 ②橙/橙 ③石英、角閃石、黑色鉱物、赤 色鉱物 ④口縁部・底部上端1/4	外面: 口縁部ヨコナデ、頭部指痕圧痕、頭部ヘラケズリ。 内面: 口縁部ヨコナデ、胴部ナナナ。	
H-5 1	網戸器 環	底径: 66	①酸化端 ②橙/黑 ③石英、赤色鉱物 ④体部下半 部1/3、底部1/1	外面: 繩縫整形、底部斜板系切、高台貼付後周縫回転 ナデ。内面: 縦紋ミガキ。	内面黑色処理
H-5 2	熟製品 刀子	長さ: [15.4], 幅: [2.0], 厚さ: 0.4, 重量: 25.8。刃部欠損。開闊。			
H-6 1	土節器 環	口径: 13.8 高さ: 4.3	①普通 ②橙/橙 ③石英、角閃石、赤色鉱物 ④口縁部~底部1/2	外面: 口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ。内面: 口縁部~体部上ヨコナデ、体部下半~底部ナナ。	

Tab. 6 出土遺物観察表(2)

計測値(cm・g)

番号	種別	計測値	①焼成 ②色調(外/内) ③胎土 ④残存	調査	備考
H-6 2	瓶 蓋	-	①還元焰 ②灰/灰 ③石英・白色鉱物 ④天井部1/2、口縁部1/8	外面：天井部へタケズリ。口縁部輪縫形。内面：カキメ。	
H-11 1	土器 环	口径：(12.0) 底径：(8.5) 厚さ：3.1	①普通 ②にぶい橙/にぶい橙 ③石英・角閃石 ④口縁部・底部1/3	外面：口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面：口縁部・体部ヨコナデ。底部ナデ。	
H-11 2	瓶 蓋	口径：(14.9) 底径：(7.1) 厚さ：5.2	①還元焰 ②灰白/灰白 ③石英・角閃石 ④口縁部・底部1/3	外面：輪縫形。高台貼付。内面：輪縫形。	
H-11 3	瓶 蓋	口径：14.8 底径：7.1 厚さ：3.4	①酸化焰 ②灰黄/灰黄 ③石英・白色鉱物・黑色鉱物 ④口縁部・体部2/3、底部1/1	外面：輪縫形、底部右回転系切。高台貼付後周縫回転ナデ。内面：輪縫形。	
H-11 4	瓶 蓋	底径：(18.0) 厚さ：1.8	①還元焰 ②灰白/灰白 ③石英・白色鉱物 ④胴部下半・底部1/3	外面：タタキ整形ナデ。胴部下端ヨコナデ。底部タタキ調整。内面：当て具痕、ナデ。底部に指痕ナデ。	
H-12 1	土器 蓋	口径：(20.9)	①普通 ②黒/灰黄 ③石英・角閃石 ④口縁部・胴部上端1/4	外面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。内面：ヨコナデ。	
H-15 1	土器 环	口径：(13.0) 底径：(3.9)	①普通 ②橙/橙 ③石英・黑色鉱物 ④口縁部・底部1/4	外面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。内面：口縁部・体部ヨコナデ。体部下端ナデ。	
H-15 2	瓶 环	口径：(18.0) 底径：(12.0) 厚さ：3.8	①還元焰 ②灰/灰 ③石英・白色鉱物・黑色鉱物 ④口縁部・底部1/5	外面：輪縫形、体部下端・底部回転ハラケズリ。高台貼付後周縫封緘ナデ。内面：輪縫形。	
H-15 3	瓶 蓋	口径：(11.2)	①還元焰 ②灰/灰 ③石英・白色鉱物・黑色鉱物 ④天井部・口縁部1/4	外面：回転ヘラケズリ。内面：輪縫形。返りあり。	
H-15 4	土器 蓋	口径：23.5 厚さ：3.87	①普通 ②浅黄/浅黄橙 ③石英・白色鉱物 ④胴部一部欠損	外面：口縁部ヨコナデ、胴部・底部ヘラケズリ。内面：口縁部ヨコナデ、胴部・底部ヘラナデ。	
H-15 5	鉄製品 鍔	長さ：(6.0)、幅：(2.8)、厚さ：0.4、重量：280.0、刃欠損。局部屈曲。			
H-16 6	縄文土器 溝	-	①普通 ②浅黄/橙/橙 ③石英・角閃石・安山岩 ④胴部片	外面：凹線紋で縱位区分。汎面に半筋継続(R1)。内面：器皿れが著しい。	
H-16 1	土器 环	口径：(14.1) 底径：(4.0)	①普通 ②橙/橙 ③石英・白色鉱物 ④口縁部・底部1/3	外面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。内面：口縁部・底部上半ヨコナデ、底部下半・底部ナデ。	
H-16 2	土器 环	口径：(21.3) 底径：(4.4)	①普通 ②にぶい橙/橙 ③石英・白色鉱物 ④口縁部・体部1/2	外面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。内面：口縁部・体部上半ヨコナデ、底部下半ナデ。	
H-16 3	石製品 鉛	長径：59.、短径：51.、高さ：29.、重さ：561. 石材：角閃石安山岩。			写真図版のみ掲載
H-17 1	土器 环	口径：(13.0)	①普通 ②橙/橙 ③片岩・石英・白色鉱物・赤鉱 ④口縁部・体部1/4	外面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。内面：口縁部・体部ヨコナデ。体部ナデ。	
H-17 2	土器 环	口径：(16.8) 厚さ：(5.5)	①普通 ②橙/橙 ③石英・白色鉱物・赤鉱 ④口縁部・体部1/5	外面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。	
H-17 3	土器 蓋	口径：(22.1)	①普通 ②橙/橙 ③石英・白色鉱物 ④口縁部・体部上端1/4	外面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。	
H-17 4	石 打製石斧	長さ：(138.0)、幅：(4.8)、厚さ：26.、重量：231.0。石材：黑色安山岩。上端部欠損。垂直打撃法。裏面に原縫面残存。下端に使用痕。			写真図版のみ掲載
H-17 5	石 器	長さ：(11.0)、幅：(7.4)、厚さ：3.6、重量：402.1。石材：安山岩。表面に崩痕。下端に敲打痕。			写真図版のみ掲載
H-18 1	土器 环	口径：(2.2) 厚さ：3.5	①普通 ②橙/橙 ③石英・角閃石・赤鉱 ④口縁部・底部3/4	外面：口縁部ヨコナデ、体部・底部ヘラケズリ。内面：口縁部・体部ヨコナデ、底部ナデ。	
H-18 2	瓶 环	口径：(10.1) 底径：(6.7) 厚さ：3.9	①還元焰 ②灰/灰 ③石英 ④口縁部・体部1/3、底部1/2	外面：輪縫形、底部右回転ヘラ切り後周縫回転ヘラケズリ。内面：輪縫形。	
H-18 3	瓶 环	口径：(17.6) 底径：(9.7) 厚さ：4.1	①還元焰 ②灰/灰 ③石英 ④口縁部・体部1/3、底部1/2	外面：輪縫形、底部右回転ヘラ切り後周縫回転ヘラケズリ。内面：輪縫形。	
H-18 4	土器 蓋	口径：(23.4)	①普通 ②橙/橙 ③石英 ④口縁部・胴部上端1/5	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	
H-18 5	瓶 环	口径：(22.2)	①還元焰 ②灰/灰 ③石英 ④口縁部・体部上端1/8	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。胴部同心円内凸具。	
H-18 6	瓶 环	幅：(2.0) 孔径：(0.7)	①還元焰 ②灰 ③石英 ④把手片か	ヘラケズリ。	穿孔、左側面削痕、右側折損
H-19 1	土器 环	口径：(18.2)	①普通 ②橙/にぶい橙 ③石英・赤鉱 ④口縁部・体部1/3	外面：ヘラケズリ。内面：ヘラナデ。	
H-19 2	瓶 环	底径：10.2	①還元焰 ②灰/灰 ③石英・白色鉱物・赤鉱 ④体部下端・底部1/3	外面：体部下端回転ヘラケズリ。高台貼付後周縫回転ナデ。内面：輪縫形、底部ナデ。	
H-22 1	土器 环	口径：(13.1) 厚さ：4.4	①普通 ②橙/橙 ③石英 ④口縁部・体部1/5欠損	外面：口縁部ヨコナデ、底部・底部ヘラケズリ。内面：口縁部・体部ヨコナデ、底部ナデ。	
H-22 2	土器 环	口径：15.0 厚さ：3.8	①普通 ②にぶい黄橙/にぶい黄橙 ③石英・角閃石 ④(3)口縁部・体部2/3	外面：口縁部ヨコナデ、体部・底部ヘラケズリ。内面：口縁部・体部ヨコナデ、底部ナデ。	
H-22 3	瓶 蓋	口径：10.9 厚さ：2.4	①還元焰 ②灰/灰 ③石英 ④(拂み)口縁部1/1	外面：天井部ヘラケズリ。口縁部輪縫形、拂み貼付後周縫回転ナデ。内面：輪縫形。返りあり。	
H-22 4	鉄製品 鉗金具	長さ：20.、幅：24.、厚さ：0.3、重量：78.			

Tab. 6 出土遺物観察表（3）

計測値 (cm, g)

番号	種別	計測値	①焼成 ②調色(外/内) ③粘土 ④残存	調整	備考
H-23 1	灰釉陶器 皿	口径：(14.1) 底径：7.5 高さ：28	①焼元焼 ②灰白／灰白、釉：灰黄 ④口縁部・体部1/5、底部2/3	外縁：橢円形。底部下平～底部回転へラケズリ。高台貼付後周縁回転ナデ。内面：橢円形。	灰釉横け抜け
H-24 1	灰釉器 环	口径：(15.3) 底径：5.2 高さ：37	①酸化焰 ②灰白／灰白、釉：灰黄 ③石英・安山岩・白色粘土・黑色粘土・赤色粘土 ④口縁部・体部1/3、底部1/4	外縁：橢円形。底部右側斜め切。内面：橢円形。	
H-25 1	土師器 环	口径：(12.6) 底径：(3.1)	①普通 ②にぶい焼 ④口縁部・底部	外縁：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。底部ヘラケズリ。 内面：口縁部・体部ヨコナデ。底部ナデ。	
H-25 2	土師器 环	口径：(12.5) 底径：(3.0)	①普通 ②にぶい焼 ④口縁部・底部1/2	外縁：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。底部ヘラケズリ。 内面：口縁部・体部ヨコナデ。底部ナデ。	
H-25 3	灰釉器 环	口径：(10.9) 底径：7.0 高さ：45	①焼元焼 ②灰白／灰白 ③石英 ④口縁部～底部 1/4	外縁：橢円形。底部右側斜め切後周縁回転ヘラケズリ。 内面：橢円形。	
H-25 4	灰釉器 环	口径：13.3	①焼元焼 ②灰白／灰 ③石英・赤色粘土 ④口縁部～体部 1/4、底部1/1、高台剥離	外縁：橢円形。底部右側斜め切。高台貼付後周縁回転ナデ。内面：橢円形。	
H-25 5	灰釉器 环	口径：7.6 高さ：1/2	①焼元焼 ②灰 ③石英 ④体部下端～底部 1/2	外縁：橢円形。底部右側斜め切後周縁回転ナデ。内面：橢円形。	灰面に楕円「×」
H-25 6	灰釉器 皿	口径：(8.1)	①焼元焼 ②灰白／灰 ③石英 ④天井部～口縁部 1/4	外縁：天井部ヘラケズリ。口縁部橢円形。内面：橢円形。	
H-25 7	灰釉器 皿	口径：(11.5) 底径：11.6 高さ：19.2	①焼元焼 ②灰白／灰白 ③石英・白色粘土・黑色粘土 ④口縁部1/2、底部～底部2/3	外縁：口縁部～側部上半側橢円形、側部下平～ヘラケズリ後、側部ナデ。底部ヘラケズリ。内面：橢円形。底部に1本の枝状物。	
H-25 8	石製品 支	長さ：(11.7)、幅：(8.0)、厚さ：(4.3)、重量：303.7g	石材：凝灰質砂岩。下平欠損。側面を角錐状に認取り。被熱。		写真図版のみ掲載
H-26 1	灰釉器 环	口径：(14.6) 底径：6.9 高さ：47	①焼元焼 ②灰 ③石英・角閃石・雲母・黑色粘土 ④口縁部・体部1/5、底部1/1	外縁：橢円形。底部右側斜め切、高台貼付後周縁回転ナデ。内面：橢円形。	底部焼成接合部孔
H-26 2	灰釉器 平底瓶	口径：8.0	①焼元焼 ②灰 ③石英・黑色粘土 ④頭部～底部 1/1	外縁：橢円形。体部下平回転ヘラケズリ。底部回転系切、高台作出後周縁回転ナデ。内面：橢円形。	
H-27 1	灰釉器 环	口径：(12.8) 底径：8.5 高さ：4.1	①焼元焼 ②灰 ③石英 ④口縁部～体部1/3、底部1/4	外縁：橢円形。底部回転ヘラケズリ後周縁回転ヘラケズリ。 内面：橢円形。	
H-27 2	土師器 甕	口径：(13.7)	①普通 ②橙／橙 ③石英 ④口縁部～側部上端 1/2	外縁：口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。内面：ハラナデ。	
H-29 1	土師器 环	口径：(12.9) 底径：6.4 高さ：4.8	①酸化焰 ②黄橙／黄橙 ③石英・赤色粘土 ④口縁部～体部1/2、底部1/1	外縁：口縁部～体部上半側橢円形。体部下平～底部ヘラケズリ。内面：ヨコナデ。	
H-29 2	土師器 甕	口径：13.4	①普通 ②にぶい焼 ④口縁部～側部上半 1/2	外縁：口縁部ヨコナデ。側部ヘラケズリ。内面：口縁部ヨコナデ、底部～側部ヘラナデ。	
H-30 1	土師器 环	口径：(13.0) 底径：6.0 高さ：3.6	①普通 ②赤褐／赤褐 ③石英・白色粘土・赤色粘土 ④口縁部～体部1/2、底部1/1	外縁：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。体部下平～底部ヘラケズリ。内面：口縁部～体部ヨコナデ。底部ナデ。	
H-30 2	土師器 环	口径：(12.1)	①普通 ②赤褐／赤褐 ③石英・角閃石 ④口縁部～底部 1/4	外縁：口縁部ヨコナデ。体部上半ナデ。体部下平～底部ヘラケズリ。内面：口縁部～体部ヨコナデ。底部ナデ。	
H-30 3	土師器 环	口径：13.7 底径：8.1 高さ：4.2	①普通 ②橙／橙 ③石英・赤色粘土 ④口縁部、底 部一部欠損	外縁：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。底部ヘラケズリ。 内面：口縁部～体部ヨコナデ。底部ナデ。	
H-30 4	灰釉器 环	口径：12.4 底径：5.4 高さ：3.7	①酸化焰 ②灰黄／灰黄 ③片岩・石英・黑色粘土・赤色粘土 ④口縁部～底部1/2	外縁：橢円形。底部右側斜め切。内面：橢円形。	
H-30 5	灰釉器 环	口径：(14.2) 底径：7.0 高さ：5.8	①焼元焼 ②灰 ③石英・安山岩 ④口縁部～体部 1/4、底部1/1	外縁：橢円形。底部回転系切。高台貼付後周縁回転ナデ。内面：橢円形。	
H-30 6	灰釉器 环	口径：13.6 底径：6.7 高さ：5.4	①焼元焼 ②灰白／灰白 ③石英 ④口縁部～体部 1/2、底部1/1	外縁：橢円形。底部回転系切。高台貼付後周縁回転ナデ。内面：橢円形。	
H-30 7	灰釉器 环	口径：13.9 底径：6.5 高さ：6.0	①酸化焰 ②灰黄／灰黄 ③石英・白色粘土・黑色粘土 ④口縁部～体部2/3、底部1/1	外縁：橢円形。底部回転系切。高台貼付後周縁回転ナデ。内面：橢円形。	
H-30 8	灰釉器 环	口径：12.9 底径：7.1 高さ：4.7	①酸化焰 ②灰白／灰黄 ③石英 ④口縁部～部欠 損	外縁：橢円形。底部回転系切。高台貼付後周縁回転ナデ。内面：橢円形。	
H-30 9	灰釉器 环	口径：14.2 底径：7.5 高さ：5.4	①酸化焰 ②にぶい焼 ④口縁部・体部2/3、底部 一部欠損、高台剥離	外縁：橢円形。底部右側斜め切。高台貼付後周縁回転ナデ。内面：橢円形。	
H-30 10	灰釉器 环	口径：14.3	①焼元焼 ②灰白／灰白 ③石英・白色粘土・黑色粘土 ④口縁部～底部1/2、高台剥離	外縁：橢円形。底部右側斜め切。高台貼付後周縁回転ナデ。内面：橢円形。	
H-30 11	灰釉器 环	口径：13.4 底径：6.7 高さ：4.7	①酸化焰 ②灰黄／灰黄 ③石英・角閃石・白色粘土・黑色粘土・赤色粘土 ④口縁部～体部3/4	外縁：橢円形。底部回転系切。高台貼付後周縁回転ナデ。内面：橢円形。	
H-30 12	灰釉器 环	口径：15.6 底径：7.5 高さ：5.6	①焼元焼 ②浅黄／黑 ③石英・黑色粘土・赤色粘土 ④体部下端1/4、底部1/1	外縁：ヘラケズリ。高台貼付後周縁回転ナデ。内面：ミガキ。	内面黒色処理
H-30 13	灰釉陶器 塊	口径：(15.6)	①焼元焼 ②灰白／灰白、釉：灰オーリー ③石英・黑色粘土 ④口縁部～体部1/3、底部1/1	外縁：橢円形。体部下平～底部回転ヘラケズリ。高台貼付後周縁回転ナデ。内面：橢円形。	灰釉横け抜け

Tab. 6 出土遺物観察表(4)

計測値(cm・g)

番号	種別	計測値	①焼成 ②色調(外/内) ③胎土 ④残存	調査	備考
H - 30 14	灰釉陶器 碗	口径: 14.1 底径: 7.4 厚さ: 4.2	①漫元端 ②にい黃/にい黄、釉、灰 ③灰オーリー ③石英、黑色粒、織維 ④口縁部~体部2/3、底部 1/1	外面: 織維整形、体部下半~底部回転ヘラケズリ、高 台貼付後周縁削除ナダ。 内面: 織維整形。	灰釉潰け掛け、 口縁部に油煙
H - 30 15	灰釉陶器 碗	口径: [10.8] 底径: 5.6 厚さ: 3.5	①漫元端 ②灰白/灰白、釉: 灰オーリー ③石英、 黑色粒 ④口縁部~体部1/4、底部1/1	外面: 織維整形、体部下端~底部回転ヘラケズリ、高 台貼付後周縁削除ナダ。 内面: 織維整形。	灰釉潰け掛け、 粗10方出土
H - 30 16	灰釉陶器 耳皿	口径: [10.2] 底径: [3.9] 厚さ: 2.4	①漫元端 ②灰白/灰白、釉: 灰オーリー ③石英、 黑色粒 ④口縁部~底部1/3	外面: 織維整形、底部右回転系切。 内面: 織維整形。	灰釉潰け掛け
H - 30 17	土器器 要	口径: [19.6]	①普清 ②赤褐色/赤褐色 ③石英、白色鉢物、赤色粒 ④口縁部~体部上1/4	外面: 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 内面: 口縁 部ヨコナデ、胴部ヘラナダ。	
H - 30 18	土器器 台付甕	口径: [13.0] 底径: 8.9 厚さ: 1.7	①普清 ②明赤褐/明赤褐 ③石英、角閃石、白色 鉢物、赤色粒 ④口縁部~胴部1/2、底部1/1	外面: 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ、脚部ヨコナデ。 内面: 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナダ、脚部ヨコナデ。	
H - 30 19	漆筆	口径: [19.5]	①漫元端 ②灰/灰 ③石英、白色鉢物 ④口縁部 ~胴部上半1/2	外面: 織維整形、胴部に縦位ナダ。 脚部付。 内面: 織 維整形。	
H - 30 20	漆器器 鉢	口径: [16.3]	①漫元端 ②にい黃/にい黃 ③石英、角 閃石、白色鉢物 ④口縁部~胴部上半1/4	外面: 織維整形。	
H - 32 32	漆器器 壺	口径: [12.5] 底径: [6.0] 厚さ: 5.0	①漫元端 ②灰白/灰白 ③石英、安山岩 ④口縁部 ~底部1/3	外面: 口縁部織維整形、体部回転ヘラケズリ、高台貼 付後周縁削除ナダ。 内面: 織維整形。	
H - 32 33	漆器品 罐	長さ: [7.9]、幅: [2.3]、厚さ: 0.3、重量: 181。 基部欠損。			
H - 33 1	土器器 环	口径: [14.4] 厚さ: [2.5] ④口縁部~体部1/4	①普清 ②にい黃/赤褐色/明赤褐色 ③石英、安山岩	外面: 口縁部ヨコナデ、体部下半ナダ。 体部下半ヘラ ケズリ。 内面: 口縁部ヨコナデ、体部ナダ。	
I - 1 1	土器器 环	口径: [11.3] 底径: [7.6] 厚さ: 3.0	①普清 ②にい黃/にい黃 ③石英、安山岩 ④口縁部~底部1/4	外面: 口縁部ヨコナデ、体部ヘラナダ、底部ヘラケズリ。 内面: 口縁部~体部ヨコナデ、底部ナダ。	
I - 1 2	漆器器 环	直径: 6.0	①漫元端 ②灰白/灰白 ③石英 ④体部下半1/5、 底部1/2	外面: 織維整形、底部右回転系切。 高台貼付周縁回転 ナダ。 内面: 織維整形。	
D - 6 1	漆器器 要	-	①漫元端 ②灰/灰 ③石英 ④胴部片	外面: 格子。 平行タキ整形。 内面: 同心円凸舟具。	
D - 7 1	漆器器 环	口径: [12.7] 底径: [9.8] 厚さ: 3.9	①漫元端 ②灰白/灰白 ③石英 ④口縁部~底部 1/2	外面: 織維整形、底部回転系切後周縁削除ヘラケズリ。 内面: 織維整形。	
D - 7 2	漆器器 环	口径: [12.6] 底径: 6.7 厚さ: 3.4	①漫元端 ②灰/灰 ③石英、黑色鉢物 ④口縁部 ~体部1/3、底部1/1	外面: 織維整形、底部右回転系切。 内面: 織維整形。	
D - 7 3	土器器 环	口径: [27.0]	①良好 ②にい黃/赤褐色/にい黃 ③石英、赤色 鉢物 ④口縁部~体部1/5	外面: 口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、体部下半の 一部ナダ。 内面: 口縁部ヨコナデ、体部ヘラナダ。	
D - 10 1	土器器 环	口径: [17.2] 底径: [13.6]	①不良 ②橙/橙 ③石英 ④口縁部~体部1/3	外面: 口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 内面: 口縁 部~体部上半ヨコナデ、体部下半ナダ。	
D - 10 2	漆器器 环	-	①漫元端 ②灰白/灰白 ③石英 ④脚部上盤 1/1	外面: 織維整形、脚部貼付後周縁削除ナダ。 内面: 成 部カキモ。 脚部織維整形。	脚部に穿孔(6穴)
D - 22 1	漆器器 皿	口径: [33.1] 底径: 6.2 厚さ: 3.2	①漫元端 ②灰白/灰白 ③石英、白色鉢物、黑色 鉢物 ④口縁部1/5、体部1/2、底部1/1	外面: 織維整形、底部回転系切、高台貼付周縁回転 ナダ。 内面: 織維整形。	口縫部に多数の 欠け跡。 内面 に剥落な現象
D - 25 1	漆器器 环	口径: [15.6] 底径: [10.3] 厚さ: 4.4	①漫元端 ②灰/灰 ③石英、黑色鉢物 ④口縁部 1/4、体部1/3、底部1/2	外面: 織維整形、底部回転ヘラケズリ。 内面: 織 維整形。	
D - 25 2	漆器器 环	口径: [15.0] 底径: 5.5 厚さ: 5.0	①漫元端 ②灰白/灰白 ③石英、角閃石、赤色粒 ④口縁部1/3、体部2/3、底部1/1	外面: 織維整形、底部右回転系切後周縁削除ナダ。 内面: 織維整形。	
D - 25 3	漆器器 环	口径: [12.8] 底径: 6.4 厚さ: 5.0	①漫元端 ②灰白/灰白 ③石英、黑色鉢物 ④口 縁部~体部2/3、底部1/1	外面: 織維整形、底部右回転系切後周縁削除ナダ。 内面: 織維整形。	
P - 42 1	土器器 环	口径: 12.3 底径: 7.7 厚さ: 3.2	①普清 ②にい黃/にい黃 ③石英、白色鉢物 ④口縁部1/2、胴部2/3、底部1/1	外面: 口縁部ヨコナデ、体部ナダ、底部ヘラケズリ。 内面: 口縁部~体部ヨコナデ、底部ナダ。	
P - 42 2	土器器 环	-	①普清 ②橙/橙 ③石英 ④底部片	外面: 底部ヘラケズリ。 内面: 底部ナダ。	内面に螺旋状痕 跡
P - 27 1	漆器品 罐	長さ: [10.5]、頭部幅:[0.7]、頭部厚さ:[0.4]、開部幅:[1.2]、開部厚さ:1.2、底部幅:0.6、底部厚さ:0.4、重量: 156。 錐部底欠損。			
W - 3 1	土器器 体	口径: [31.6]	①良好 ②にい黃/赤褐色/にい黃 ③石英、赤色 鉢物 ④口縁部1/4、体部1/8	外面: 口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 内面: 口縁 部ヨコナデ、体部ヘラナダ。	
W - 4 1	土器器 环	-	①普清 ②橙/橙 ③石英 ④底部片	外面: 底部ヘラケズリ。 内面: 底部ナダ。	内面に螺旋状痕 跡
W - 20 1	土器器 环	-	①普清 ②橙/橙 ③石英、赤色鉢物 ④底部片	外面: 底部ヘラケズリ。 内面: 体部下端ヨコナデ、底 部ナダ。	内面に縦位筋紋
W - 20 2	漆器器 皿	口径: [11.6] 底径: 7.3 厚さ: 4.9	①漫元端 ②灰/灰 ③石英、白色鉢物、黑色鉢物 ④口縁部1/6、底部1/1	外面: 織維整形、体部の一部に回転ヘラケズリ、底 部回転系切、高台貼付後周縁ナダ。 内面: 織維整形。	
W - 20 3	漆器器 皿	口径: 15.7	①漫元端 ②灰/灰 ③石英、黑色鉢物 ④天井部 ~口縁部3/4、横溝削除	外面: 天井部ヘラケズリ。 口縁部織維整形。 内面: 織 維整形。	外面に自然崩 壊み接合部に条 理
W - 20 4	土器器 要	口径: [20.1]	①普清 ②橙/橙 ③石英 ④口縁部~胴部 上端1/4	外面: 口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 内面: 口縁 部ヨコナデ、体部ヘラナダ。	

VI まとめ (遺構: Fig.25・26)

本調査では、低地沿いの微高地という立地条件を背景にした古墳時代から近世にわたる營為を明らかにできた。とくに、古墳時代後期（6世紀初頭）における榛名山噴火の影響が大きく、噴火がもたらした火山灰（Hr - FA）や泥流は水田が營まれてきた低地を埋め尽くしてしまった。平坦化した大地は水田域としての復興を為し得ず、畠作地に切り替えられていく。火山噴火から150年ほど経過すると集落の形成がはじまり、まさに律令期の黎明において本遺跡周辺が上野国の中核地域にならんとする趨勢と連携する。以後、集落は古代を通じて継続することも垣間見られた。ここでは、本調査区で得られた成果を、時代を追って概観してみたい。

古墳時代前期～後期 本遺跡周辺における低地開発の事例は西側を流れる牛池川流域で蓄積されてきたが、今回の調査では滝川流域の資料を追加することができた。滝川流域には有力豪族に連なる總社古墳群や山王庵寺が近接しており、古代史上重要な位置を占める。本調査で確認できた最も古い遺構は古墳時代前期に求められた。東西に延びる低地に沿って複数条の溝跡が検出され（W-9・10・18）、水田を灌漑する水路などに想定される。W-9・10号溝跡は新旧関係をもって重複することから、水路の造り替えが看取される。W-18号溝跡の底面に並ぶビットは、軟弱な地面を補強する地業痕跡を思い起させ、通路としての機能が連想される。一方、微高地の調査区北側では畠跡（N-5）が見付かっており、地形に即した土地利用が施されていた。これらの事例は本遺跡周辺における開拓初期の姿を彷彿させ、同じ滝川流域に營まれた稻荷塚東遺跡の集落跡が同様の時期から形成され始めていることも参考すべきであろう。

Hr - FA 降灰時には埋没が進行していた溝跡が検出されており（W-11・15～17）、古墳時代後期初頭以前の様相を示す。南北に走行するW-16・17号溝跡は滝川からの導水が予想される。Hr - FA一次堆積層下では、当該期に通有な小区画水田が見付かった（N-4）。畦畔や水路の配置が前段階の溝群に似ることから、灌漑方法が踏襲されてきていることが分かる。低い畔2の存在から古い畦畔が残るような耕起の経過も看取できた。なお、70m程しか離れていない大渡道場遺跡N1の畦畔（主軸：N-132° - E）が本事例（主軸：N-67°～92° - E）とあまり整合しない状況には、火山噴火による平滑化以前の複雑な地形が介在するのであろう。本遺跡の西側に展開する比較的広い低地帯（Fig.3）は、これらの水田域に接続していたものと考えられる。広い低地帯の開発は在地有力者を支える基盤となり得ることから、その様相を突き詰めることは地城史上的基礎資料となるはずである。しかしながら、該当区域は古くから実施されてきた土地改良により詳細が不明となっており、本遺跡のような事例の蓄積は重要性が増すところである。地形が著しく変化していることも考慮すべき点であろう。

古墳時代末期～平安時代 榛名山噴火後の平坦化した微高地には集落が新興し、古墳時代末期から平安時代（7世紀後半、8世紀前・後半、9世紀後半～10世紀前半、12世紀初頭）にわたる多数の堅穴住居跡が見付かった。その突然の進出と盛況は總社古墳群の大型方墳に代表される在地有力者や律令官庁との関係を考慮する必要があり、大型の柱穴をもつB-2号掘立柱建物跡の存在はその有力な手掛かりとなろう。

堅穴住居跡の件数はその発生時から半世紀あたり6軒ほどで推移するが、9世紀前半・10世紀後半～11世紀後半は空白となり、12世紀前半では1軒に留まる。主軸方位は正位を向くものがほとんどで、後述する近世の建物跡にまで同様の方位が選ばれる動向は、時代を越える地勢的な規範が潜在するのであろう。ただし、H-19・20号住居跡は北から45°ほど傾き、集落の発生期に異なる主軸も意識されていたようである。それでも7世紀後半における正位主軸の採用は頗る、調査事例の蓄積が進む元總社地区遺跡群とは異なるといえる。なお、遺構覆土の粘性が非常に強いことも本調査区の特徴といえ、低地沿いの立地に起因すると推測される。覆土の供給元となる基盤層にはⅩ・Ⅺ層の粘質土やⅥ層のHr - FA シルトに加えて、Ⅴ層のHr - FA 混入土層やⅧ層の浅黄色ブロックを含むAs - C混入土層から粘性を有しており、度重なる洪水などの影響が連想される。こういった覆土の性質は、灰を使用した版築様の貼り床、工具痕の凹凸が著しい掘り方と掘り方埋土へのHr - FA



Fig.25 遺構変遷図（1）

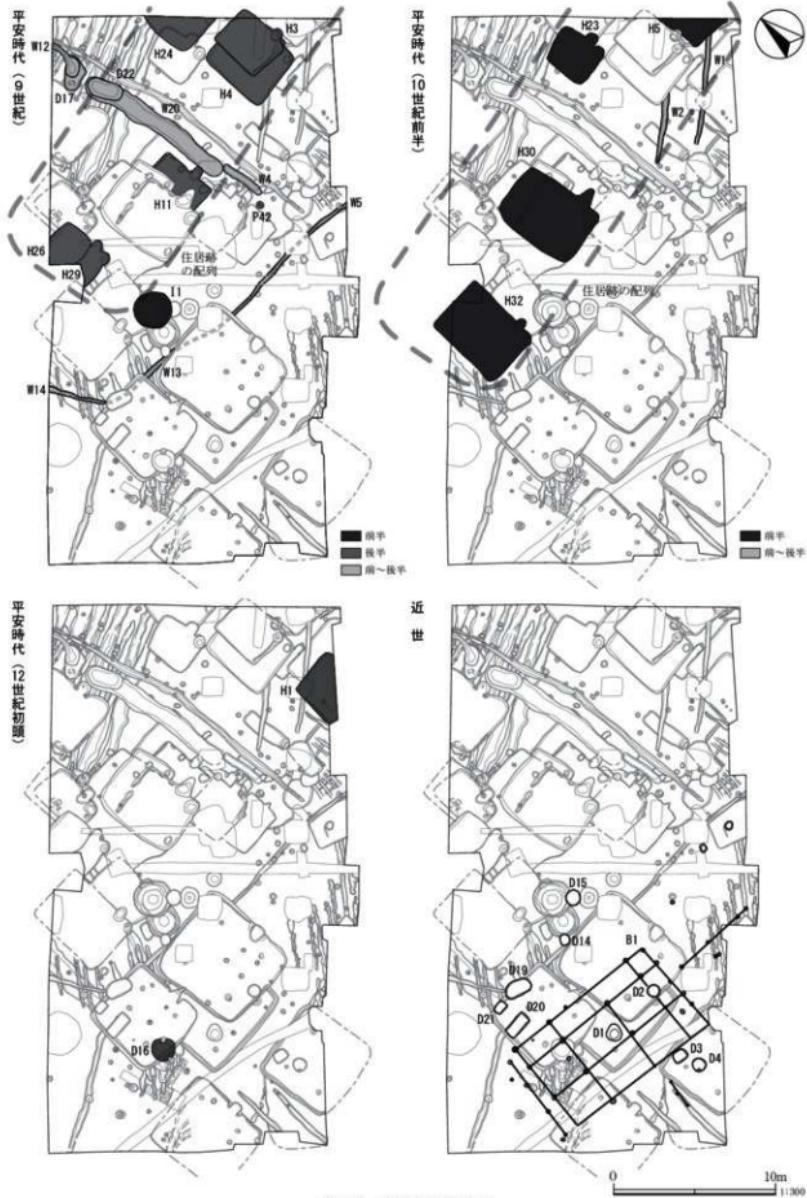


Fig.26 遺構変遷図（2）

ブロックの混入、カマドへの遺構覆土と変わらない粘質土の使用などといった特異な構築方法を導いた。

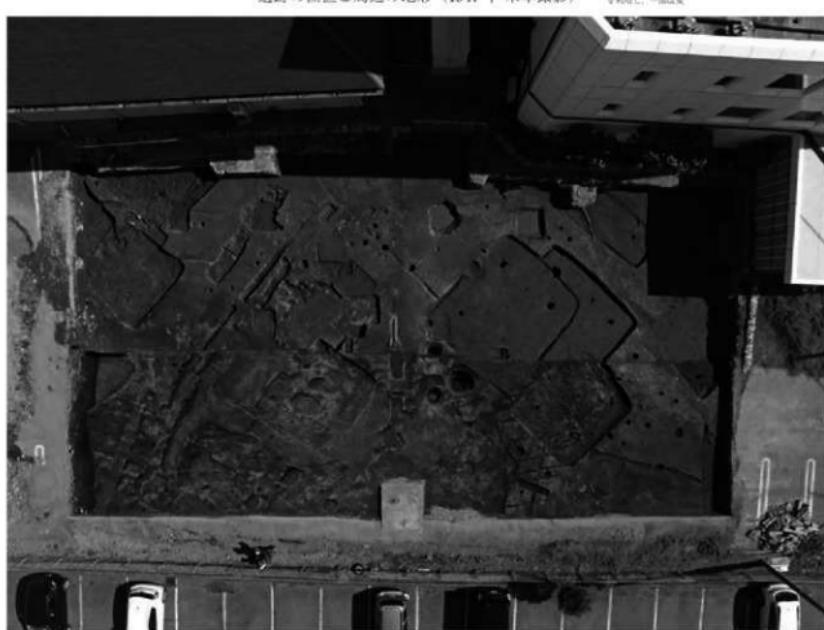
遺構の配置を鑑みると、8世紀中葉、9世紀後半、10世紀後半に亘る時期に見出された。7世紀後半の住居跡は南北に向く列状の配列が見て取れ、その配列は8世紀前半まで続く。他方、8世紀後半～10世紀前半は調査区の北側に偏り、戸戸跡も含め、あたかもW-5・13・14号溝跡に開かれた範囲に収まる。区画溝は排水にも効果を発揮するようで、発掘調査従事時に雨水の高い排出能力を目の当たりにした。なお、重複関係から推定すると区画の直前には畠（N-3・6）が営まれていたことになる。くだんの区画内は8世紀代のW-3号溝跡と9世紀後半のW-20号溝跡によって南北に細区分されていた。8世紀後半の住居跡は南北区画の西側に限定される可能性が高く、東側では畠作（N-1・2）が行われていたようである。9世紀前半の遺構分布は希薄となるが、8世紀後半から9世紀後半にわたる区画意識の連続や9世紀前半の遺物が埋没中の戸戸など（I-1・W-20）に散見されることから、土地利用は継続していたものと思われる。9世紀末期には南北細区画の東側に再び住居跡が分布し、10世紀前半にいたる。当該期の住居跡配置は東西方向の意識が窺われ、7世紀後半～8世紀前半と対比的である。また、大渡道場跡No.1で検出された8軒の住居跡は10世紀代に限定されることから、集落域の拡大が見て取れる。南北区画の溝（W-20）はカマド構造物に関連する漆製芯材・炭化物・土師器焼片を伴う土壤で埋没しており、周囲にある住居の廃絶に当たりその廃材を機能しなくなった区画溝に廃棄している様子が看取された。10世紀後半以降には軸の異なる区画（W-1・2）が派生したようである。11世紀の空白期を経て、12世紀初頭にはAs-B純層が堆積する住居跡（H-1）が土坑（D-6）とともに検出され、孤立した状況を見せる。なお、H-1号住居跡はカマドが未検出だが、貼り床の状況から住居と判断した。

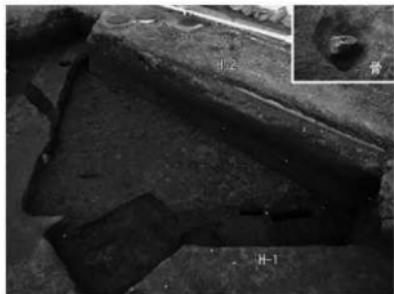
8世紀中葉の区画は竪穴住居跡の形状にも反映されていた。平面形態は7世紀後半～8世紀前半に正方形が、8世紀後半～10世紀後半に主軸方向が短い長方形が主流となる。また、7世紀後半～8世紀前半では面積が30m²を越える大型が目立ち（平均面積は20m²、最大はH-15号住居跡の41m²、最小はH-7号住居跡の7m²）、4本主柱穴やほぼ全周する深い周溝を持つ。一方、貯蔵穴はカマド右側の南東隅に設ける傾向にあるが、土坑状の建付けは8世紀後半から10世紀前半に（7～8世紀代の貯蔵穴は少なく、ピット状を呈する）、床下土坑の掘削は9世紀後半～10世紀前半（H-24・30・32）に限られた。

近世 17-18世紀には農家が営めていたことが判明し、周辺では少ない当該期の事例を加えることができた。その配置は三間取り田字型を呈し、規模は67.6m²（20坪）とやや小ぶりである。深いピットには段を持つもの認められ、柱部分がめり込んだような状況は、粘質な低地性土壤の影響が見て取れる。周囲には直線的に並ぶピット列も散見され、堀や垣根が配されていたものと考えられる。

引用・参考文献

- 前橋市史編さん委員会 1971 「前橋市史」第一巻
群馬県史編さん委員会 1989 「群馬県史」通史編3 中世
群馬県史編さん委員会 1990 「群馬県史」通史編1 原始古代1
群馬県教育委員会 1971 「群馬県道場跡」（東毛編）
群馬県教育委員会 1969～1970 「上野原分室発掘調査報告書」
群馬県教育委員会 1989 「足跡上野原分室発掘調査報告書」
前橋市教育委員会 1976～1980・1982 「山王寺跡発掘調査報報」
前橋市教育委員会 2007～2009・2012 「山王寺跡」
前橋市教育委員会 2013～2015 「推定上野官府」
前橋市埋蔵文化財発掘調査会 1983・1984・1986～1994・1997 「元社社明神道跡」1～XⅢ
前橋市埋蔵文化財発掘調査会 1993～1997・2000 「大屋敷道路」1～Ⅲ
前橋市埋蔵文化財発掘調査会 1999 「能社撰明神北道路」
前橋市埋蔵文化財発掘調査会 2002 「社甲町向原大道西Ⅲ道路」社甲向原明神北道路
前橋市埋蔵文化財発掘調査会 2003 「元社社小見V道路」元社社小見内付道路
前橋市埋蔵文化財発掘調査会 2003 「元社社小見内進道路」元社社福荷冢大道
西Ⅳ道路
前橋市埋蔵文化財発掘調査会 2006 「元社社蒼海道路群（7）」
前橋市埋蔵文化財発掘調査会 2007 「元社社蒼海道路群（9）元社社蒼海道路群（10）」
前橋市埋藏文化財発掘調査会 2008 「元社社蒼海道路群（14）元社社蒼海道路群（19）」
前橋市埋蔵文化財発掘調査会 2008 「元社社蒼海道路群（16）」
前橋市埋蔵文化財発掘調査会 2011 「大渡道場跡」
群馬町教育委員会 1988 「北原道跡」
財团法人群馬埋蔵文化財調査事業団 1983～1984 「中尾道路」
財团法人群馬埋蔵文化財調査事業団 1986～1988・1990～1992 「鳥沼道路」
財团法人群馬埋蔵文化財調査事業団 1986～1988・1990～1992 「上野原分寺跡・尼寺中間地跡」
財团法人群馬埋蔵文化財調査事業団 1993・1994・1996 「元社社寺田道路」
財团法人群馬埋蔵文化財調査事業団 2001 「元社社西川道路」
財团法人群馬埋蔵文化財調査事業団 2003 「福森塚道古河路跡」
財团法人群馬埋蔵文化財調査事業団 2007 「足跡岡原明神北IV道路」元社社牛池道路・元社社北川道路・元社社小見内V道路」
山崎一 1971 「群馬県古墳遺跡の研究」
日沖伸史 2015 「群馬県前橋市元経社地域における地形の形成と土地利用」
「地域考古学」1号 地域考古学研究会
坂本和俊 2015 「古墳時代初期の土器を使わない製塙と塙の流通痕跡」『埴生考古学』50 玄武考古学会
阿久津智和 2016 「上野の国をを探して」『発掘された古代の役所～最新の発掘調査から見た上野・北武氏の律令社会～』伊勢崎市教育委員会





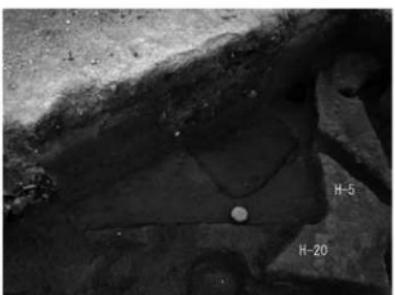
H - 1 · 2 号住居跡



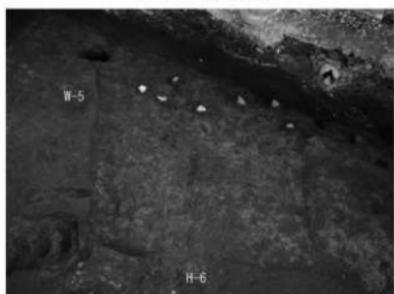
H - 2 号住居跡掘り方の工具痕



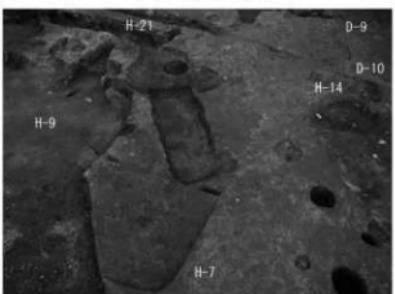
H - 3 · 4 号住居跡



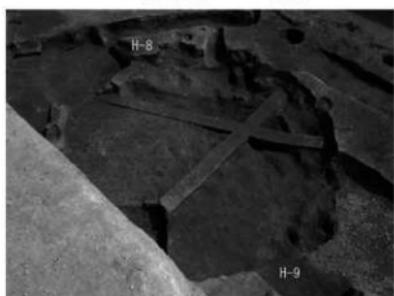
H - 5 · 20 号住居跡



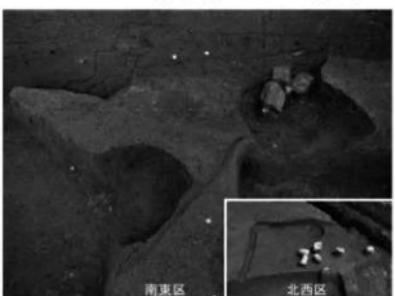
H - 6 号住居跡, W - 5 号溝跡



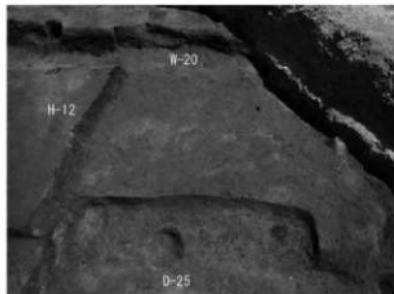
H - 7 · 14 · 21 号住居跡, D - 9 · 10 号土坑



H - 8 · 9 号住居跡



H - 11 号住居跡



H - 12 号住居跡



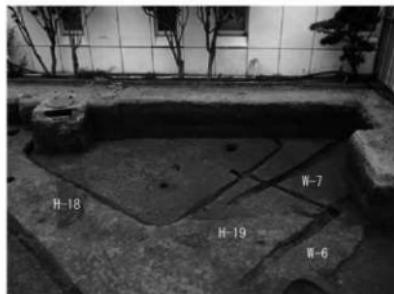
H - 13 号住居跡



H - 15・16・17 号住居跡



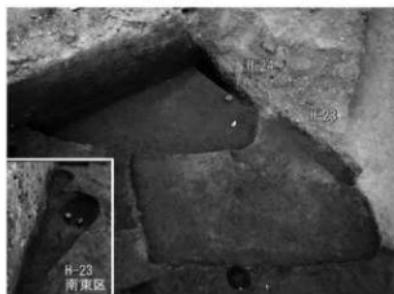
H - 17 号住居跡（掘り方）



H - 18・19 号住居跡, W - 6・7 号溝跡



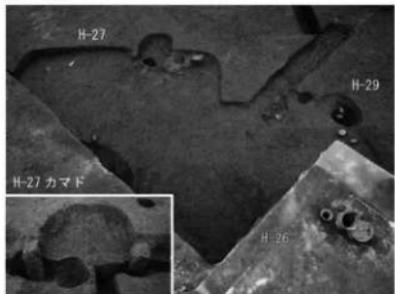
H - 22 号住居跡



H - 23・24 号住居跡



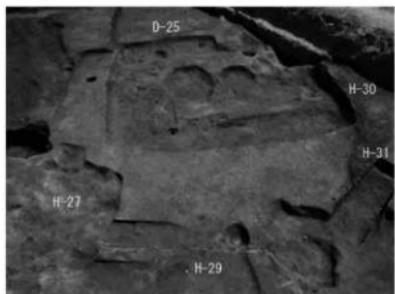
H - 25 号住居跡



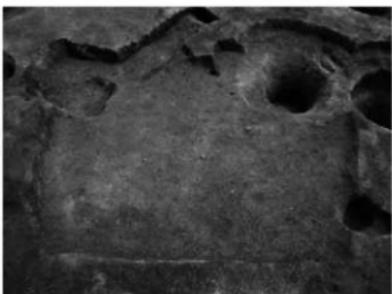
H - 26 · 27 · 29 号住居跡



H - 27 · 28 号住居跡



H - 30 · 31 号住居跡, D - 25 号土坑



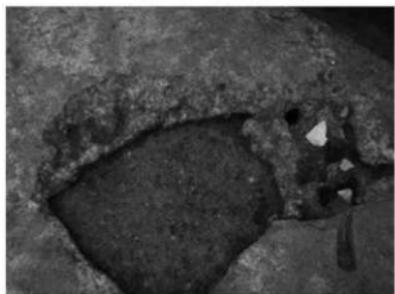
H - 33 号住居跡



B - 1 号掘立柱建物跡(北西区)



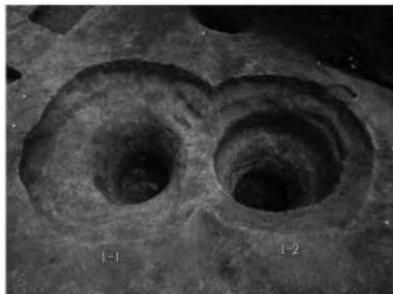
B - 2 号掘立柱建物跡



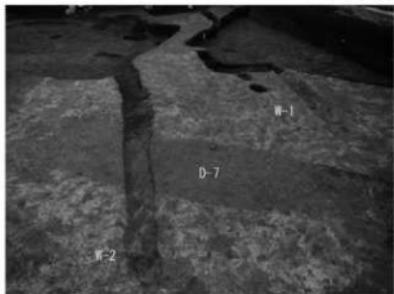
D - 6 号土坑



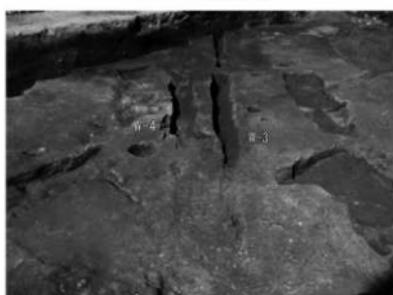
D - 7 号土坑



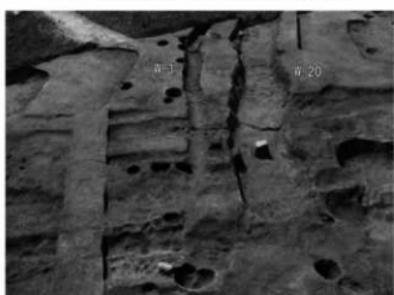
I - 1・2号井戸跡



W - 1・2号溝跡, D - 7号土坑（調査前）



W - 3（南東区）・4号溝跡



W - 3（北西区）・20号溝跡



W - 8号溝跡



W - 9・10号溝跡



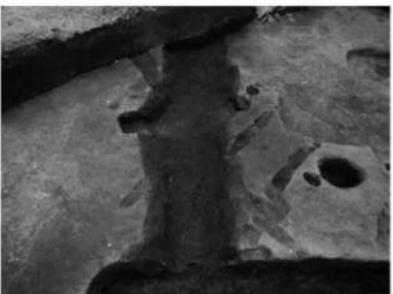
W - 11・18号溝跡



W - 15号溝跡



W - 16 号溝跡



W - 17 号溝跡



N - 3 号耕作痕



N - 4 号耕作痕（トレンチ 3）



N - 4 号耕作痕（トレンチ 4・5）



N - 5 号耕作痕, W - 19



W - 14

N - 6 号耕作痕, W - 14



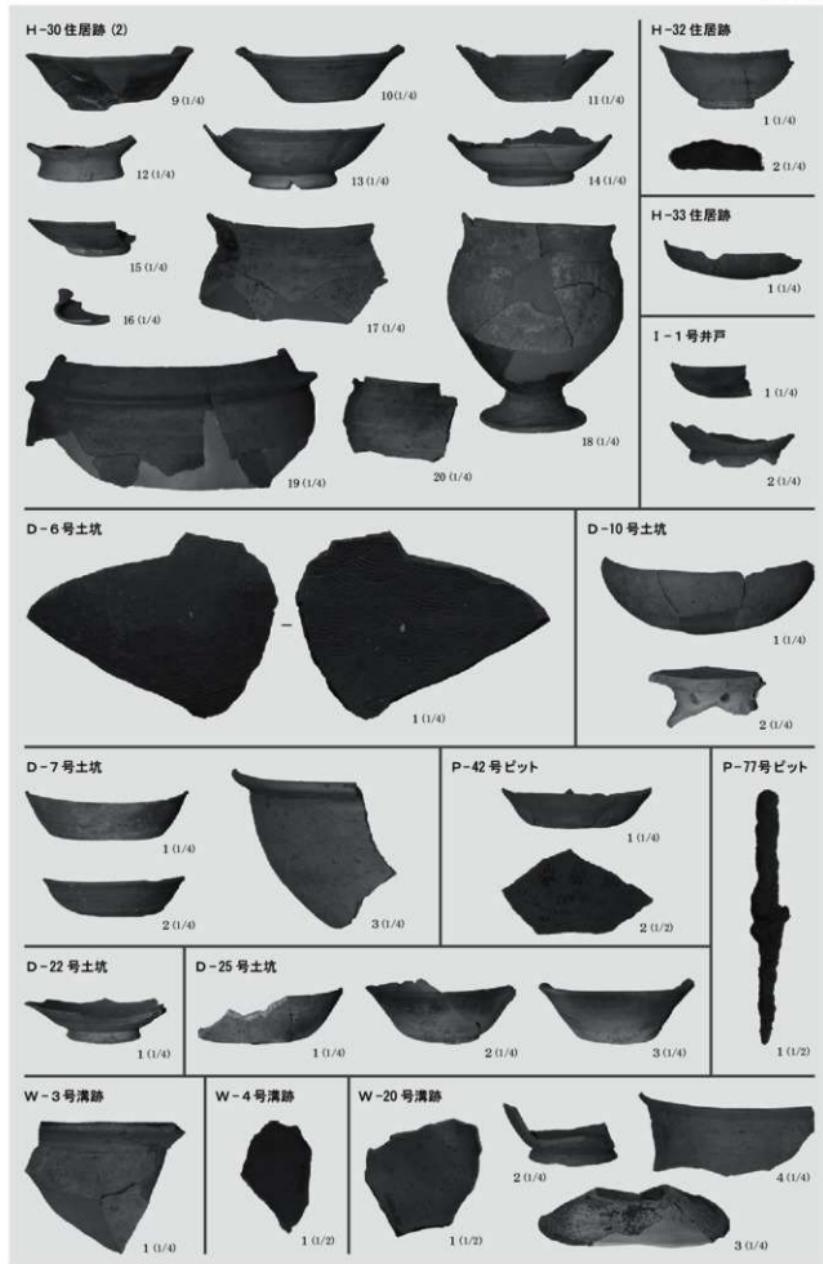
N - 7 号耕作痕



出土遺物 (H-2・4~6・11・12・15~17)



出土遺物 (H-18・19・22・27・29・30)



出土遺物 (H-30・32・33, I-1, D-6・7・10・22・25, P-42・77, W-3・4・20)

抄 錄

フ リ ガ ナ	オオワタリドウジョウイセキナンバーニ
書 名	大渡道場遺跡No.2
副 書 名	群馬県労働者生活協同組合事務所建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻 次	
シ リ ー ズ 名	
編 著 者 名	高橋清文 藤坂和延
編 集 機 関	有限会社 毛野考古学研究所
發 行 機 関	前橋市教育委員会
發行機関所在地	〒371-0853 群馬県前橋市総社町3-11-4 Tel. 027-280-6511
發 行 年 月 日	西暦 2016年10月25日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おおわたりどじょう い せき 大 渡 道 場 遺 跡 No.2	ぐんま まえはしのまち し おおわたり 群馬県前橋市大 渡 町二丁目3番 3・4・17・18・ 19・26	10201	27 A 218	36° 39° 49°	139° 04° 42°	20160216 ~ 20160428	680	群馬県労働者 生活協同組合 事務所建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
大渡道場遺跡 No.2	縄文時代			縄文土器 石器	古墳時代末期～平安時代の堅穴住居跡が密集する集落跡。	
	集 落	古墳時代 (後期)	堅穴住居跡 掘立柱建物跡 井戸跡	32軒 1棟 2基	土師器 須恵器 羽釜 灰釉陶器 鉄製品 銅製品	As - B 火山堆積物で埋没する平安時代末期の堅穴住居跡。
	水田跡					
	畠 跡	平安時代	土 坑 ピット 溝 跡 水田跡	14基 93基 20条 1箇所	石製品 鐵製品 水田跡	大型の柱穴をもつ掘立柱建物跡。 Hr - FA 火山堆積物層を働き込む畠跡。 Hr - FA 火山堆積物層直下で検出された古墳時代後期初頭の水田跡。
	集 落	近 世	掘立柱建物跡 土 坑 ピット	1棟 9基 21基	磁器・陶器	古墳時代前期の灌漑用水路と地形に則して作り分けられる畠跡。

大渡道場遺跡No.2

群馬県労働者生活協同組合事務所建設
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成 28年 10月 20日印刷

平成28年10月25日発行

編 集／有限会社 毛野考古学研究所

發 行／前橋市教育委員会

前橋市総社町3-11-4

Tel. 027-280-6511

印 刷／朝日印刷工業株式会社